

持続可能な日本と地域社会ビジョン

SDGsとFEC自給ネットワーク(詳細補足版)



時代の変遷：食・農・環境の運動

1972 1980 1992 2000 2011 2015

国連人間環境会議(1972)

オイルショック(1973) 成長の限界

地球サミット(1992)

地球環境・南北問題
軍縮⇒平和の配当

同時多発テロ(9.11) グローバルリスク社会
イラク・アフガン攻撃(2001) 平和のゆらぎ

世界金融危機

国連MDGs目標 ⇒ SDGs
グリーンエコノミー ★リオ+20

核実験、原発の普及⇒

スリーマイル事故(79) ・ チェルノブイリ事故(86)

< 原発ルネッサンス ⇔ フクシマ原発事故 >

「沈黙の春」 「複合汚染」

反公害運動、有機農業運動

提携10原則 産直3原則

**世界的なエコロジー運動
国際的な有機農業の展開
世界食料サミット(1996)**

CSA(地域支援農業)
AMAP(農民農業を支える会)
有機認証とPGS(参加型認証)

食と農の自給運動、自給の拡張
生産と消費の結合(提携/協同の模索)

国際家族農業年(2014)

グローバル化 VS ローカル化

冷戦構造の終焉 ⇒

⇒ **★グローバル市場経済の拡大** ⇒
<環境的適正>と<社会的公正>のゆらぎ

グローバル化 VS ローカル化(本日の話: 主軸)

★1960・70年代: 戦後の高度成長と公害・環境破壊の激化(開発の矛盾)

⇒ 革新自治体の登場

⇒ 「**地域主義**」: 玉野井芳郎(1918~1985)

『地域分権の思想』(1976年) 『エコノミーとエコロジー』(1978年)

『地域主義』(共編、1978年) 『地域主義の思想』(1979年)

★食糧自立国際シンポ(1988)

● GATTからWTO(世界貿易機関)体制へ(1995) グローバリゼーション

・地方分権一括法 施行(2000)

・地方分権改革推進法 施行(2007)

■ 「グローバリゼーション」: 地球環境問題の深刻化

1990年代の国際経済の進展、バブル崩壊、

21世紀: 同時多発テロ、世界金融危機、3.11震災 …… コロナ危機

・「ローカリゼーション」(Localization: 地域化)

・「リローカリゼーション」(Re-localization: 地域回帰)

・「**FEC自給圏**」(内橋克人)

・「**地域循環共生圏**」(ローカルSDGs)

★コロナ・パンデミックの問いかけ: 発展様式の変革、SDGsの真価 !!

1989年3月5日発行
昭和62年11月17日第1刷発行

食糧自立 国際シンポジウム

「'88食糧自立を考える国際シンポジウム」
全記録

世界の農家の
声を聞く



世界の農家の声を聞く

● OPEN	1	五〇〇人の農民市民が集まった 「食糧自立を考える国際シンポジウム」 ● 開催報告
生態系と地域文化を重視する新たな 社会を求めて 西川 潤	9	
第一部 食糧の輸出入が暮らしをこわす ライ	16	
工業製品の輸出削減をぬきにした 農業保護は先進国のエゴだ ホントライ・フリードクワイチャー アメリカ	28	
マーケットローンはアメリカ農民に 利益をもたらしたか ハーベイ・ジョー・サンサー 三浦アフリカ	36	
援助や輸入でアフリカの飢饉は救えない タイルウ・ネーアオ	36	
タイ	41	農村はいかにして都市の商品文化に まきこまれたか アヒチヤート・トニエー
アメリカ	42	世界一の農業地帯カリフォルニアで 進む農村の荒廃 イサオ・ウジモト
日本	43	五・二〇農民デモ頓末記 ● 日中対比の食糧政策 林 俊 吾
韓国	44	工業立国の御旗のもと農家負債は 積み重なる 金 聖 丁
日本	45	食糧自給率の低下と農業の衰退 大野和興

第IV部 広げよう！自立のためのネットワーク

●農業と食糧を焦点に

共生への道を歩み出した農民・市民の

国際ネットワーク

古沢広祐

義兄弟アヒチャートのおきみやげ

小松光一

赤とんぼのいな、国の稲作

●サンチーさんの田んぼは見たアメリカへ行く
宇根豊

アメリカ家族農業の危機は、なぜ

●大企業と小農民の相剋の歴史から

マーク・リッチー／ケビン・リストウ ●武野村かつ子

しろうと混成部隊が国際シンポジウムに

こぎつけるまで

橋本明子

シンポジウム協力者一覧

参考文献ガイド／シンポジウムビデオのご案内

（アジアからのレポート）

存在しなかつた農民のための「奇跡の水」／フリードリンから／伊庭みか子 19	225
政策／レーシアから／伊庭みか子 47	223
ひろがる生重防除／インドネシアから／鳥居サス子 100	218
よる大洪水でタイの「自家の村」が死の谷に／タイから／奥州寛志 105	212
（韓国から）小島基子 173	208
貧富の格差を広げた農業近代化	204
森林伐採に	198
上からの改革だったセマウル運動	



過剰だといわれる世界の食糧。
しかし、そこでは南北間の格差、
富めるものと貧しきものの分配の問題は問われていない。
いま世界の食糧をどうみるか。
そして日本の果たすべき役割は――



生態系と地域文化を重視する 新たな社会を求めて

西川 潤

風雲急を告げる自由化の動き

最近、農産物自由化を求める一部の人々の合唱が
起っている。これは一つには、先進工業諸国で農業保護
が近年著しく増大していることから、OECDの場



●じゅん 1936年台湾台北市生まれ
日大教授。著書「飢えの構造
（ナンド社）」「人口、食糧、貧困
（クレット）」「第三世界と平和（早
稲社）」



*** 過去の歴史的なパンデミック事例**
……危機が契機に、社会変動を誘発？

年	感染症・病原体	地域	死亡者数	備考
1347-1351	ペスト(黒死病)	ユーラシア	ヨーロッパ人口の3~5割	ヨーロッパの封建制崩壊を早めたか
1500年代前半	天然痘	アメリカ大陸	地域によっては5割以上	アメリカ大陸先住民の社会を破壊か
1881-1896	コレラ	世界的	150万人以上	史上5回目のコレラ・パンデミック
1918-1920	スペインかぜ	世界的	3千万~1億人	このインフルエンザで世界人口の2~5%が死亡、第1次世界大戦の死者をはるかに上回る
1957-1958	アジアかぜ	世界的	100万~200万人	インフルエンザ
1968-1969	香港かぜ	世界的	50万~200万人	飛行機の発達により感染が大規模に拡大した最初のウイルスか(インフルエンザ)
1960-現在	HIV/AIDS(エイズ)*	世界的(主にアフリカ)	3500万人	HIVが最初に発見されたのは1983年、最初の症例は1959年に採取した血液サンプルから発見
1961-現在	コレラ	世界的	年間2万1千~14万3千人	近年のアウトブレイクの例:ハイチ(2010-),イエメン(2016-)など
1974	天然痘	インド	2万6千人	その後、1977年のソマリアの患者を最後に根絶に成功

新型コロナウイルス 国別感染者数の推移

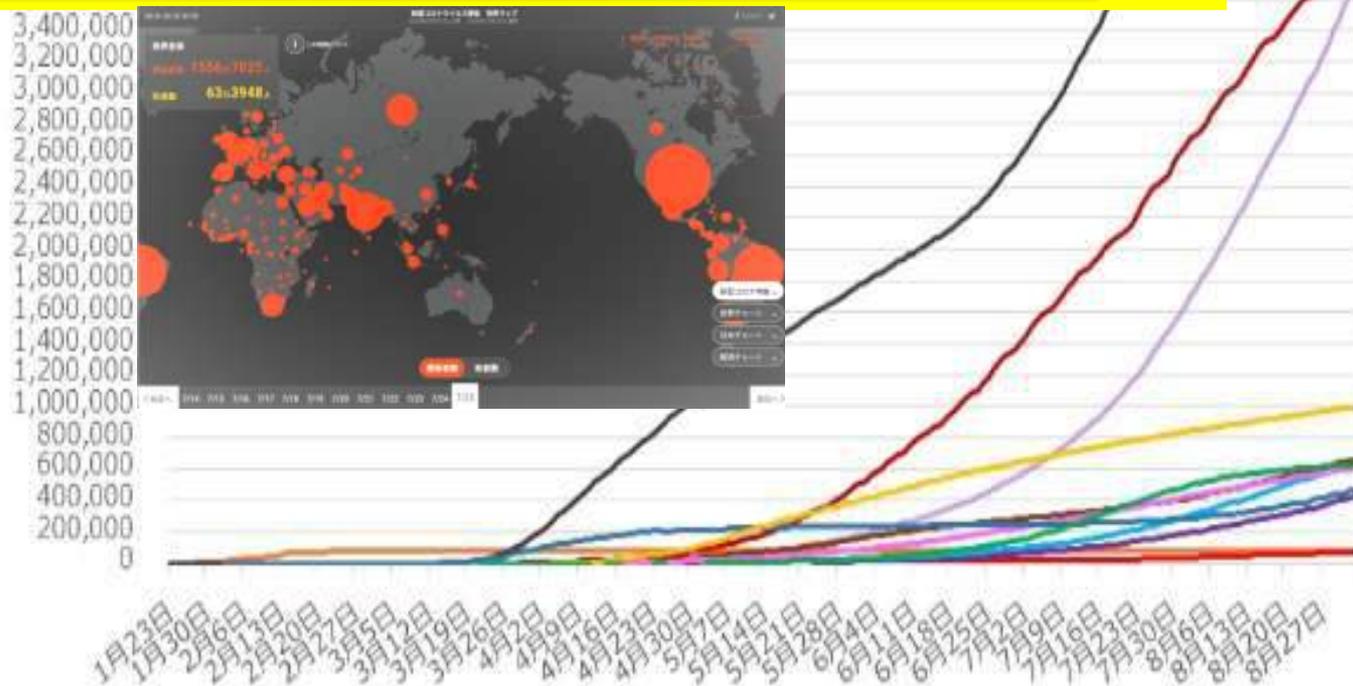
9/2 (水) 時点

国別感染者数の推移 (累積)

(上位10か国及び中国・日本)

出典：各国政府発表
(米国は各州発表)

パンデミック宣言時(3/11)、感染者約5万人、死者は4千人余り(3/4が中国内)、1か月半で、感染者300万人、死者は約23万人(5/1) 9/3現在、感染者2600万人、死者約86万人、感染者は日増25万人規模で拡大中……



米国	(5,994,453人)
ブラジル	(3,950,931人)
インド	(3,691,166人)
ロシア	(997,053人)
ペルー	(657,129人)
南アフリカ	(628,259人)
コロンビア	(624,069人)
メキシコ	(606,036人)
スペイン	(470,973人)
アルゼンチン	(428,239人)
中国	(85,066人)
日本	(69,001人)

(注) 中国は「感染者数」に無症状感染者を含めていない。

Americas

7,016,851

confirmed

Europe

2,987,256

confirmed

Eastern Mediterranean

1,331,893

confirmed

South-East Asia

1,268,923

confirmed

Africa

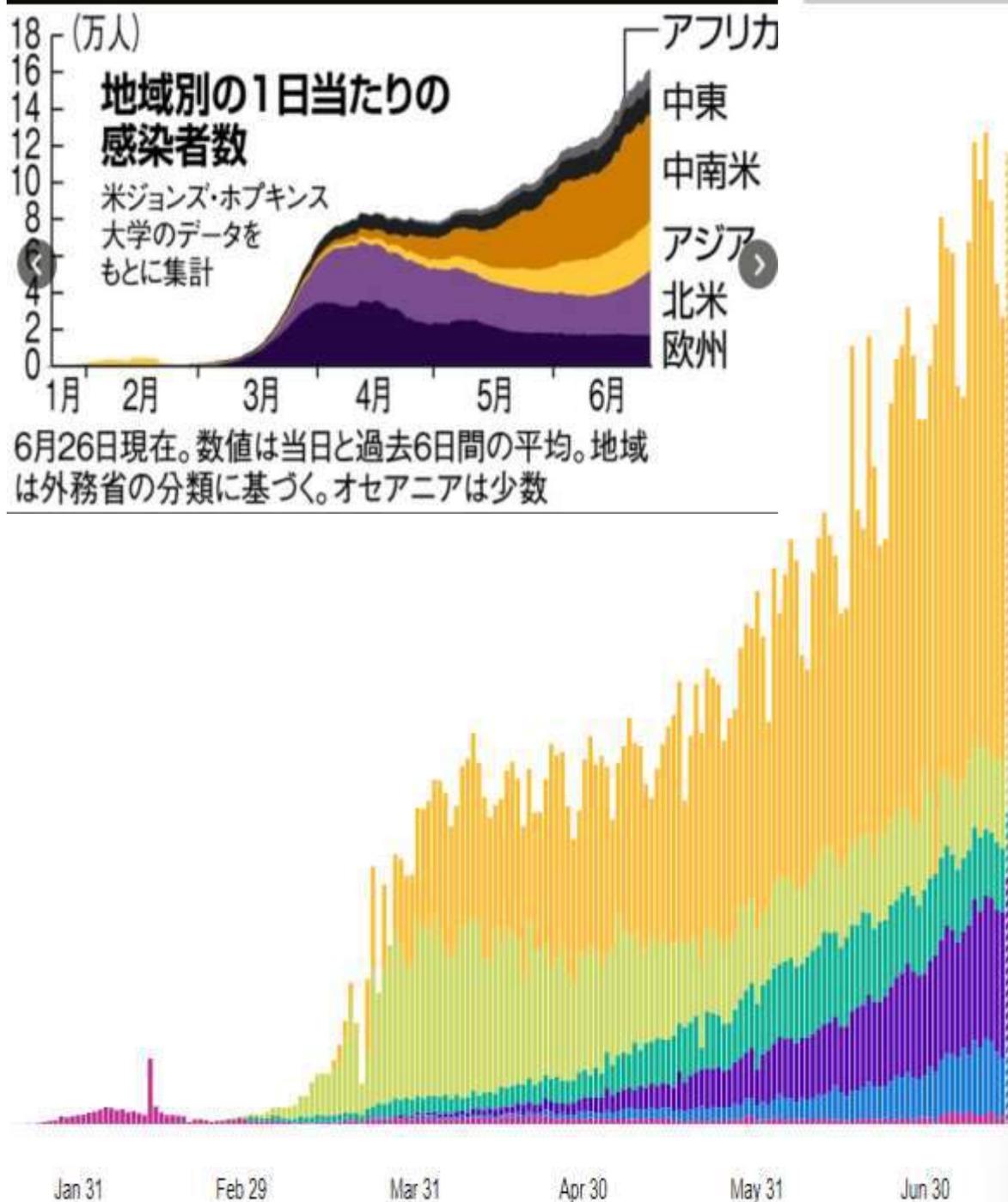
523,403

confirmed

Western Pacific

249,786

confirmed



Source: World Health Organization

Data may be incomplete for the current day or week.

今後の行方： 4つのシナリオ

【 コロナ危機が進行中 】…… 危機が矛盾をあぶりだす!!

世界：まだら模様で危機が進行中… 大きな違いを生む要因？
(社会構造の要因分析、何をどう評価するか？)

感染拡大⇒ 医療崩壊⇒ 死者急増⇒ ロックダウン（封鎖）⇒ 経済・社会危機

【今後の動向は …… 4つのシナリオ ？ 】

(1) 悪循環的な危機の進行……雇用悪化、差別・排斥、弱者切り捨て、反グローバル

(2) 現状維持と回復 ……外見上の回復と内在的な不安定(負債、システム不良)

(3) 従来システムの改革 ……テレワーク、オンライン教育・医療、デジタル経済化

(4) 根本的な変革 ……脱都市化、脱中央と分権化、小規模・適正社会、福祉の充実

人間存在の3層からの視点

(1) 自然・生命系における視点 (自然・人間関係)

- * ウイルスを敵と見て撲滅? * 人間の自然破壊が招いた?
- * **不可思議なウイルスへの理解(存在受容、進化の推進役?)**

(2) 経済・社会・政治における視点 (社会関係)

- * **全体主義(統制・監視)社会に向かうか?**

民主・市民(自立・自治)社会に向かうか? <大きな岐路に立つ>

- * 急拡大するグローバリゼーションへの警鐘: グローバル世界都市を頂点に「中心—周辺」世界を形成。 経済危機 ⇒ **世界的恐慌!?**

- * **分権・自立システムへ軌道修正(脱巨大都市化、地域・農山漁村の重視)**

(3) 精神・文化的な論点 (人間としてのあり方)

- * 危機に、人間の奥底の醜さと尊さが現れる: カミュの小説『ペスト』1947年
- * 不安心を増幅、差別や他者攻撃(排斥、暴力)を誘発、SNSでの誹謗・中傷
- * **冷静に危機を見つめ、人間社会のあり方を問いかける発言も ⇒**

人間存在の3層構造

—相互重層的関係—

心象的存在
共同主観的世界
(全ては我・我々の中に認識)

人間(認識体)
時空世界と
組織・集団の形成
世界認識・社会の創出

宇宙論と人間原理

社会・文化的存在
(社会・経済・政治・歴史構成体としての人間)

生命
有機体
生物進化
霊長類
人類

宇宙
銀河
太陽系
地球系

生物的(物理・化学)的存在としての人間
(宇宙・地球・生物・生態系・人類の進化)

複合的危機の時代：人間存在への問いかけ

第1：生命・生存を基本的に支える “生存環境の危機”

地球環境、資源エネルギー、気候変動、生物多様性

第2：経済・社会システムがはらむ矛盾 “経済的危機”と“社会編成の危機”

豊かさ、格差・貧困、差別・人権問題……

第3：人間存在、生きる意味、心理、 価値観、人間性の疎外にかかわる “精神的(実存的)危機”

存在の揺らぎ、バーチャル化、人工知能・生命、ロボット

人類絶滅の6つのシナリオ

「人類が絶滅する6のシナリオ もはや空想ではない新書」
(フレッド・グテル著 夏目 大訳 河出書房新社 2013年)

スーパーウィルス

大量絶滅

気候変動

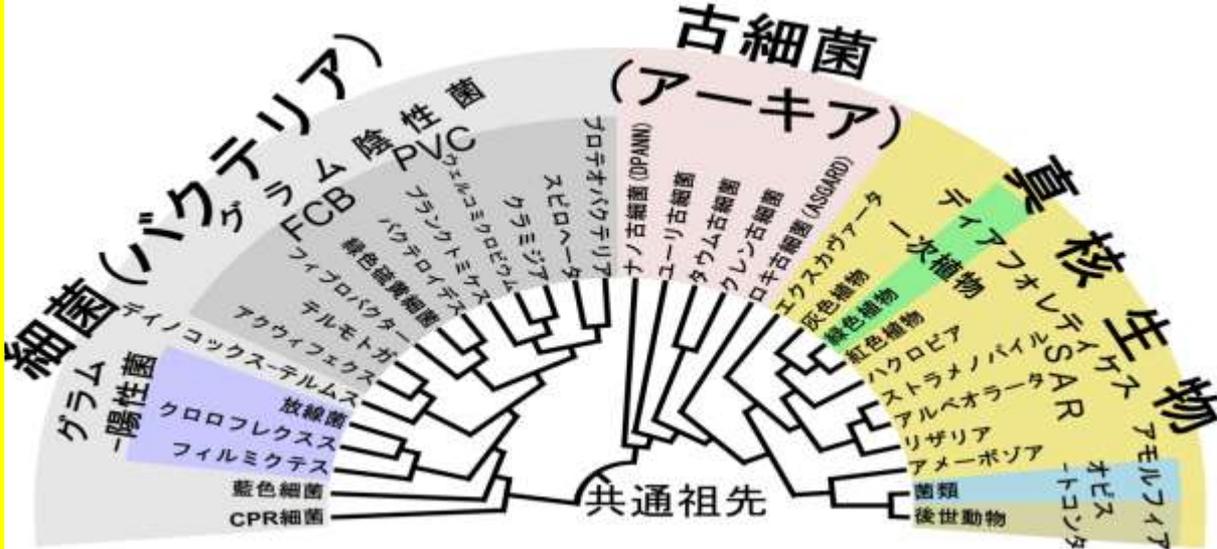
生態系

バイオテロリズム

暴走コンピュータ

自然・人間関係の見直し

自然界・地球史の大半
 中核は微生物(細菌類)、
 ウィルスたち
 人間のゲノムの3~4割は
 ウィルス起源かも？



BLUE BACKS

生物は ウィルスが 進化させた

巨大ウィルスが語る新たな生命像

Takemura Masaharu
武村政春

日経サイエンス 2020 05
 SCIENTIFIC AMERICAN 日本版 最古の科学雑誌

新型コロナウイルス 病原体の実像に迫る

宇宙の 化学進化

多様な物質は
いかに生まれたか

がん進化論にもとづく治療
運動が記憶力を改善する理由
新入生のための読書ガイド

from nature ダイジェスト
<http://www.nikkei-science.com/>

武村政春
Takemura Masaharu
東京理科大学 産出

ヒトが いまあるのは ウィルスの おかげ!

役に立つウィルス・
かわいいウィルス・
創造主のウィルス

ウィルスは われわれ生物の創造主!?

世界は未発見のウィルスで満ちており、
われわれはウィルスの海の中を生活している!
「巨大ウィルス」研究の第一人者が語る
不思議なウィルスと進化の面白さはなし。
ウィルスを知ると世界の見方が変わる!

さくら舎

人獣共通感染症への挑戦 (出典:サイエンスアゴラ2016 11/5)

人間社会に影響する人と動物の感染症

鳥インフルエンザ



口蹄疫

新興感染症 ニパウイルス

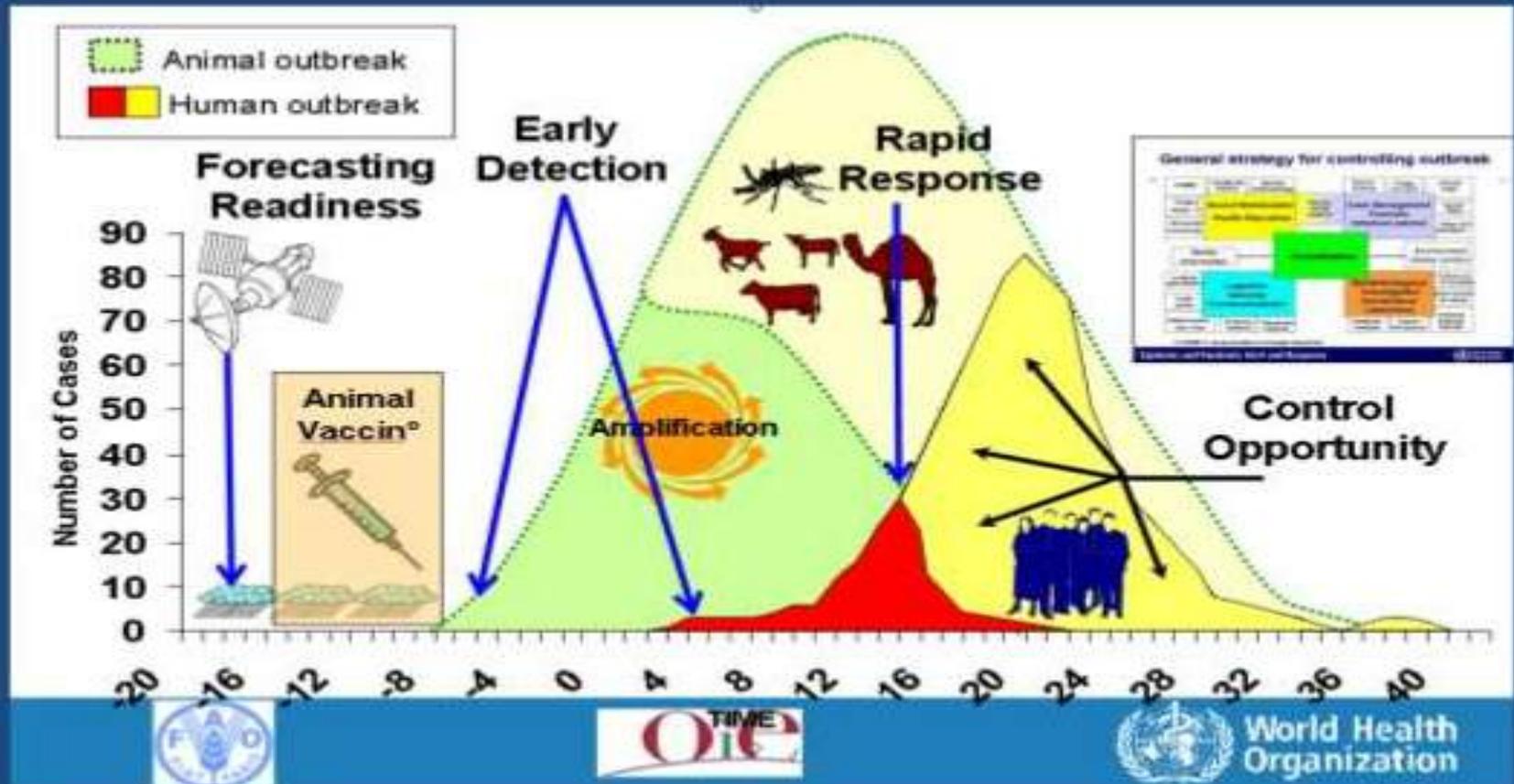
エボラ出血熱 MERS

狂犬病



健康はひとつ:「ワンヘルス」

《 健康概念の広がり:人間存在の土台・自然観・世界観の変革 》



One World - One Health presentation Katinka de Balogh FAO

<https://www.slideshare.net/charmkey5/one-world-presentation-katinka-de-balogh-fao>

Harm Kiezebrink Published on Sep 3, 2014

During the FVE conference in Brussels on April 7, 2014, Katinka de Balogh, 病原体は、ブニヤウイルス科フレボウイルス属に属するリフトバレー熱ウイルス。感染経路は、ウイルスを保有した蚊に刺されること、または、ウイルスに感染した動物の血液や他の体液による接触することです。

健康はひとつ:「ワンヘルス」 (イメージ図:出典、福岡県生活衛生課)

《 健康概念の広がり:人間存在の土台・自然観・世界観の変革 》

“One Health”の理念

人と動物の健康と環境の保全を担う関係者が緊密な協力関係を構築し、分野横断的な課題の解決のために活動していこうとする考え方

- ・地球温暖化
- ・生物多様性保全
- ・抗菌物質拡散

人の健康

- ・人と動物の共通感染症
- ・食の安全・安心
- ・薬剤耐性菌

“One Health”

環境の保全

動物の健康

- ・家畜伝染病
- ・ペット感染症
- ・動物用医薬品の適正使用

図表 ワンヘルス・アプローチ



個と全体の相似関係：人・自然・宇宙

～人間(健康)と自然(地球環境)の相関性～

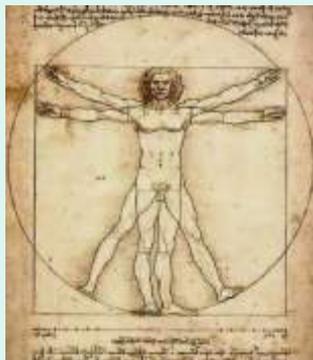
「内なる環境」(体内・健康) ⇔ 「外なる環境」(自然・生態系)

＜体内環境(健康)＞ → **人体** ←＜自然環境・地球環境問題(環境破壊)＞
食べ物 ⇔ 賜物、供物

「**身土不二**」の思想 ⇔ プラネタリーヘルス

* LOHAS: Lifestyles of Health and Sustainability

* 古きは、ミクロコスモスとマクロコスモスの思想



(注) 健康概念の拡張 …… 「健康」さ、「健全」さの強調がもつ危うさ(優性思想)

* 全体主義的な傾斜に、どうバランスをとるか? (かつてナチスの健康政策?)

* WHO憲章で「健康」定義の改正議論: 「疾病・病弱の否定」から、身体的・精神的・心的(spiritualが議論されたが不採択)・社会福祉的な状態の動的完全性へ

.....

世界が ぜんたい幸福にならないうちは
個人の幸福はあり得ない



自我の意識は 個人から 集団 社会 宇宙と
次第に進化する

(この方向は 古い聖者の踏み また教へた道 ではないか)

新たな時代は 世界が一の意識になり生物となる方向 にある
正しく強く生きるとは 銀河系を自らの中に 意識して
これに応じて行くことである

(注: 追求すべき理想・ロマン主義的ビジョン、人間存在の矛盾をどう相對視するか..)

中国・武漢在住の女性作家、方方さんの「武漢日記」

「……ひとしきりの疫病で、無数の人間模様が暴露されました。そして中国各地の役人の基本的レベルもあらわになりました。さらにわれわれの社会の疾病も露呈しました。これは、今回のコロナウイルスよりもたちが悪く、いつまでも治らない疾病です……」
(1月30日)

「……一つの国家が文明的かどうかを計る尺度は、高層ビルが多いとか、車が速いとか、強大な武器や軍隊を持つとか、発達した科学技術、優れた芸術、派手な会議や光り輝く花火や、全世界を豪遊し、モノを買いあさる観光客が多いかどうかではない。
尺度はたった一つ。それは、その国の弱者に対する態度なのです……」
(2月24日)

参考情報：執筆しました：農文協ブックレット21『新型コロナ19氏の意見 われわれはどこにいて、どこへ向かうのか』5月14日発売、<http://toretate.nbkbooks.com/9784540201370/>
*電子ジャーナル（総合人間学研究No.14, 6月公開予定）「コロナ危機が問う自然・人間・文明」
http://synthetic-anthropology.org/?page_id=334

ポスト・コロナの時代 (日本未来学会、定例会2020/4/24)

コロナ後と脱人間中心主義

定例会の論点は、「ポストコロナ」の世界を展望するうえで、「分断か連帯か」、「自己中心主義か利他主義か」といった二項対立が主眼に置かれた。その論点を整理して議論を深めるため、日本未来学会の2人の理事が共通認識やヒントとなるデータや見解を披露した。

●1年後、未来への「大転換点」となるか？

ポスト・コロナ時代の大潮流

- *「分断」vs「連帯」？
- *「自己中心主義」vs「利他主義」？
- *「既存秩序の崩壊」vs「新たな勢力の台頭」？
- *「西洋型民主主義国家」vs「強権国家」？
- *「新自由主義」vs「社会正義の復権」？

導入される「新型コロナ感染者・追跡アプリ」中国、韓国、シンガポール、ポーランド...

近未来デジタル管理社会が出現？



韓国の事例 (via. TBS [NEWS23] 2020.4.8)

- ① 街の監視カメラ
- ② 携帯電話のGPS
- ③ クレジットカードの履歴

→感染経路の確認と感染前後の行動を10分で把握。感染拡大防止に役立てている。監視カメラは接触者の確認。把握できた感染者の行動を携帯電話向け速報で市民に届ける。

駅ターミナルの監視カメラ、シンガポール

LIVE
八丈島 10/10%
43

韓国“封じ込め”の光と影
感染者の行動を追跡・公開

行動把握する韓国

感染者の立ち寄り場所が100m以内にあると反応するアプリ

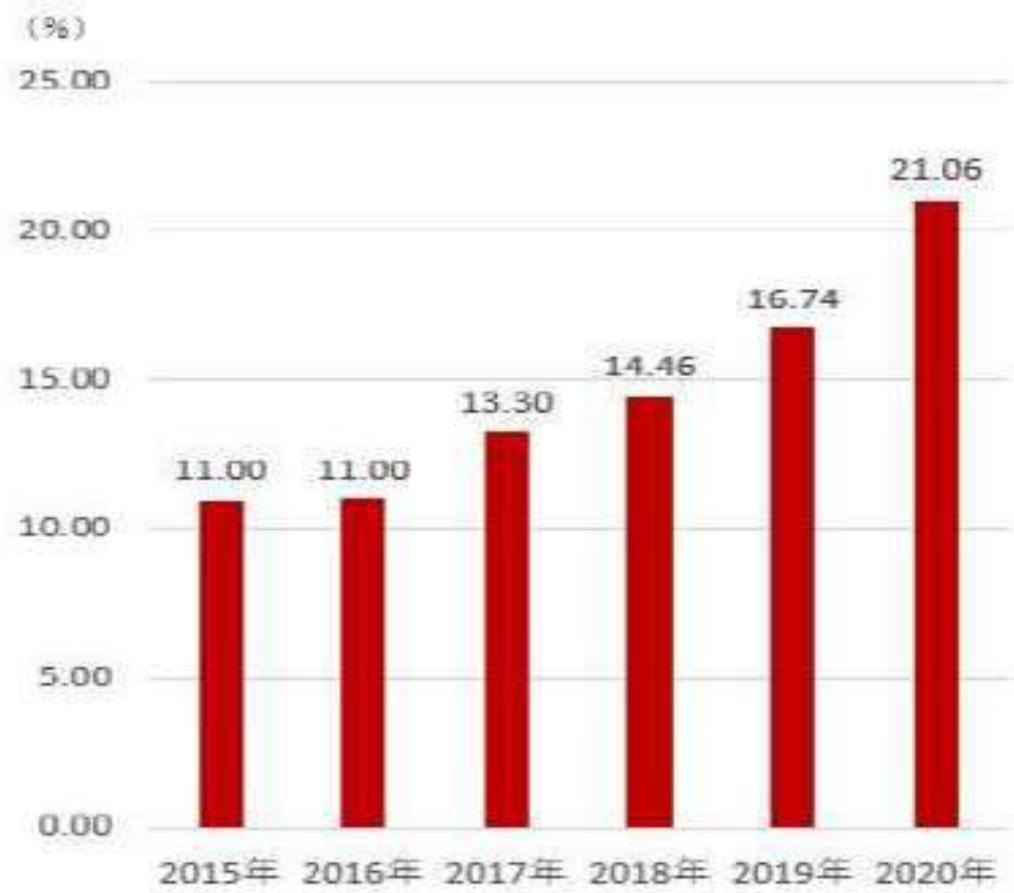
感染者を監視するためのGPS機能がついたリストバンド
→アプリと連動する



「GAFA+M」コロナ危機で躍進

—米株シェア2割超に、主力アクティブも高位維持
(ファンドニュース 2020/05/19)

S&P500連動ETFの「GAFA+M」
構成比率推移 (2020年は5月15日時点)



G-MAFIA vs BAT

(Baidu, Alibaba, Tencent)

BIG NINE ビッグ・ナイン

巨大ハイテク企業と
AIが支配する人類の未来

- Google
- Amazon
- Apple
- IBM
- Facebook
- Microsoft
- Alibaba
- Tencent
- Baidu

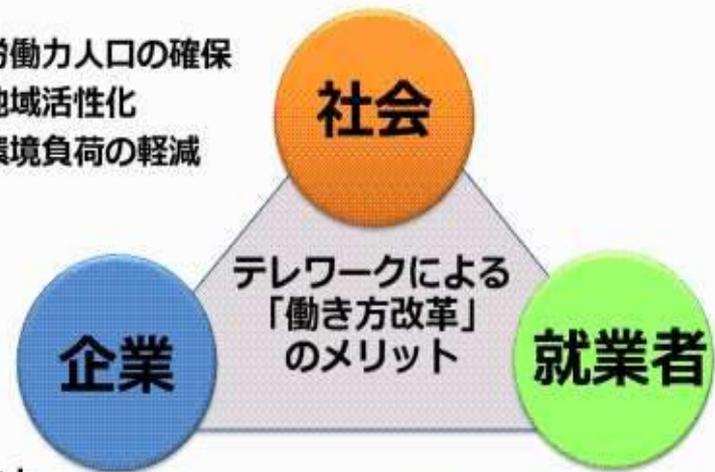
エイミー・ウェブ
編みどり

脱都市化・分権自立・自然共生社会へ

もう一つの未来：働き方や生活スタイルの大変革？



- 労働力人口の確保
- 地域活性化
- 環境負荷の軽減



- 生産性の向上
- 優秀な人材の確保・離職抑止
- コストの削減（ペーパーレス等）
- 事業継続性の確保（BCP）

- 多様で柔軟な働き方の確保（WLB）
- 仕事と育児・介護・治療の両立
- 通勤時間の削減

アフター？ウィズ コロナ時代

★危機へのリスク対応・レジリエンスの力:

コロナウイルス感染拡大の影響による雇用危機、
「シェアアグリ」(観光業で働く若者の雇用機会と農業の労働力を確保)、他産業からの転職受け入れ(外国人労働力の移行)

⇒ (雇用・働き方の見直し)

- ・エッセンシャル・ワーク: 生存・生活を支える仕事
- ・国のレベルでの対応が遅れる一方で、地方レベル、自治体レベルでは様々な動き・対応が生じている

⇒ (地域分権・自立の契機に)

- ・とくに金融機関、JAや関連組織、生協、各種企業や団体などでも多様な取り組みが展開
- ・危機対応に共同性/連携・連帯(協同組合)が見直される

★ローカルな動きとともに、グローバル世界の動向を見定める

パラダイム転換、レジーム形成の対立・拮抗、危機便乗資本主義

アフター/ウィズ/コロナ時代とは？

(1) マクロな自然・人間関係： 新型コロナは氷山の一角、各種の新興感染症の増大現象(人獣共通感染症、細菌・ウイルス、人為介入の拡大への反動、気候変動・災害ほか)。

新たな視点として、野生・家畜・人間の健康を総合的にとらえる「ワンヘルス」(マンハッタン宣言)や地球システムを健康という視点でとらえ直す「プラネタリー・ヘルス」が浮上している。それは、**エッセンシャルワーク、農・食への視点、グリーンリカバリーの浮上**。リスク多発の時代への対応力(レジリエンス)の見直しと呼応。

不安面は、危機への積極的な対応として巨大AI企業などの世界展開が加速化。世界的IT企業9社、**G-MAFIA vs BAT**(Baidu, Alibaba, Tencent)の動向。ワクチン開発など医薬品分野の巨大企業、食料・農産品分野での寡占的な動向、世界枠組み(各種国際協定)、国際政治面(米中対立ほか)などの不安定化。

(2) 社会・経済システムへのインパクト： 従来の経済発展のあり方、**グローバル化の問い直し(無制約な経済効率、市場拡大)、格差社会のあぶり出し、巨大都市化と農村・地域の従属化の見直し**、テレワークやオンライン、ネット活用(新技術、関係性の組み直し)などが進行中。

デジタル経済の新たな展開方向(情報管理・監視・ロボット化と民主主義)に注意。ローカル化・脱グローバル化の動きとともに、他方ではさらなる国際協調・連携の強化(「グローバル」化)の進展。

(3) グローカル時代： 相互信頼のネットワーク、適正規模や分権・自立・協同的な営みの重視。国のレベルでの対応の遅れ、地方レベル、自治体レベルで注目の動き。地域金融、JAや関連組織、生協、各種企業や団体の多様な取り組みが展開。

コロナ禍で産地直送のネット通販急成長 生産者と消費者をITつなぐ

6/26(金)配信、Yahooニュース

<https://news.yahoo.co.jp/articles/5d36c8e854813b9ce282f1c77a480e32a2434769?page=1>

新型コロナウイルス流行で、経済が大きなダメージを受ける中、生産者と消費者をスマホなどITでつなぐ新興の産地直送ネット通販が、大幅に業績を伸ばしている。

2016年にサービスを開始した「ポケットマルシェ」(岩手県花巻市)は、コロナ流行前の2月に比べ5月の注文数が約20倍増、5万人だった登録ユーザーは6月には3倍以上の18万人に達した。17年にサービスを開始した、ビビッドガーデン(東京)の運営する「食べチョク」も同期間に注文数が74倍増、ユーザー数は9.3倍の急成長で、ポケットマルシェと競い合う。生産者と消費者の意見交換も活発で、流通の姿を変える台風の目となっている。(共同通信＝橋田欣典)

~~~~~

\* 流通ニュース: **日本生協連**／5月は店舗12.7%増、宅配23.0%増

／2020年06月22日

日本生活協同組合連合会(日本生協連)が6月22日に発表した、全国65主要地域生協の5月度の供給状況(速報値)によると、総供給高は2538億5700万円(前年同月比18.6%増)となった。2月から4カ月連続で前年を超えた。

<https://www.ryutsuu.biz/sales/m062248.html>

~~~~~

* 「**オイシックス・ラ・大地**、21年に物流キャパを約3倍に拡大 コロナを踏まえた事業計画を発表」 <https://diamond-rm.net/management/56962/>

世界動向(諸レジームのダイナミックな展開)

1972 1980 **1992** **2000** 2011 2015 **2020**

国連人間環境会議(1972)

オイルショック(1973) 成長の限界

核実験、原発の普及⇒

スリーマイル事故(79) ・ チェルノブイリ事故(86)

南北・貧困問題、環境問題の深刻化

冷戦構造の終焉 ⇒

地球環境・南北問題の浮上
軍縮 ⇒ 平和の配当？

地球サミット(1992)⇒

同時多発テロ(9.11) グローバルリスク社会
イラク・アフガン攻撃(2001) 平和のゆらぎ？

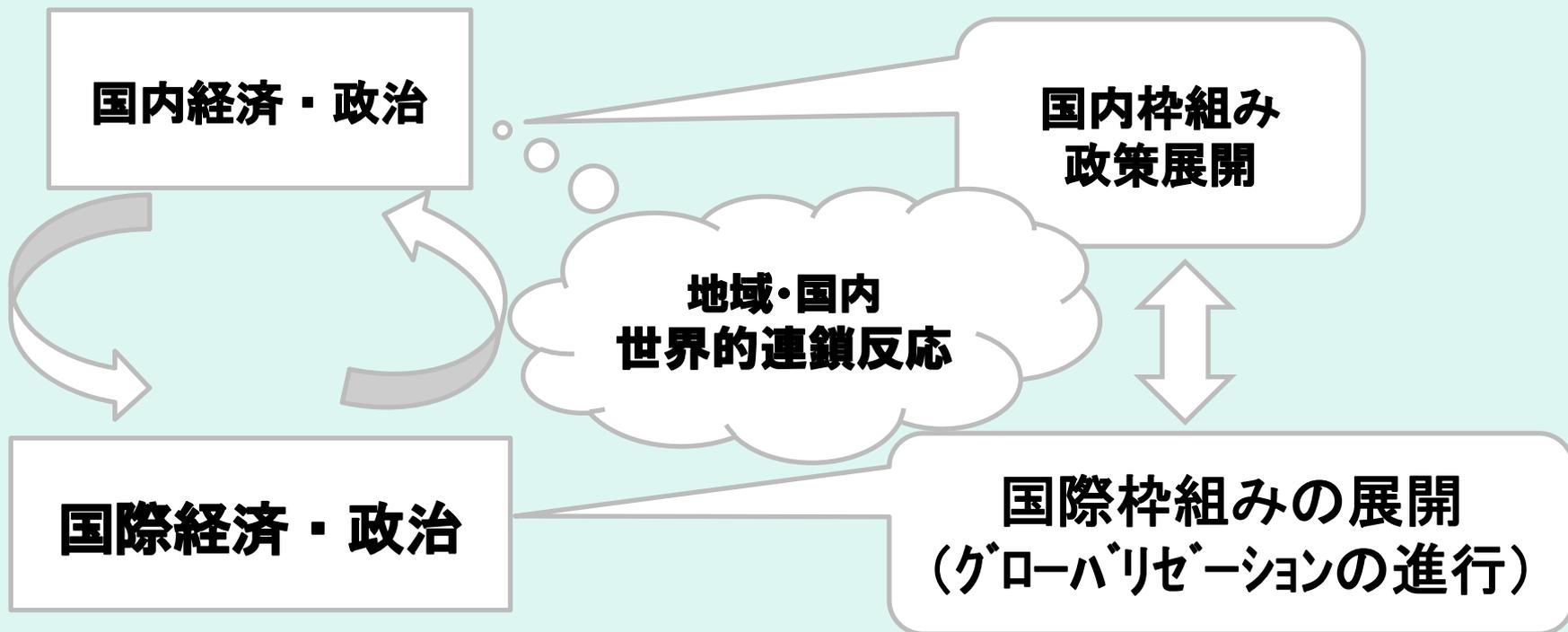
世界金融危機 コロナ危機
国連MDGs目標(2000年)⇒SDGs
グリーンエコノミー ★リオ+20

＜ 原発ルネッサンス ⇄ フクシマ原発事故 ＞

地球市民意識の台頭
世界的なエコロジー、人権、民主化の運動
環境・平和・人権・福祉レジーム形成⇒

グローバル化 VS ローカル化

GATTからWTO体制(1995)？
★グローバル市場経済の拡大 ⇒？
＜環境的適正＞と＜社会的公正＞のゆらぎ



多様なレジーム（体制・制度・勢力）全体の動向分析
（対立、抗争、調整、協調） ⇔ 正・負のダイナミズム

- * 貿易(WTO体制)、経済制度・金融システム …… 資本主義・自由市場体制
- * 軍事・競争・リスク社会 …… 産軍複合体、国益、リスク管理

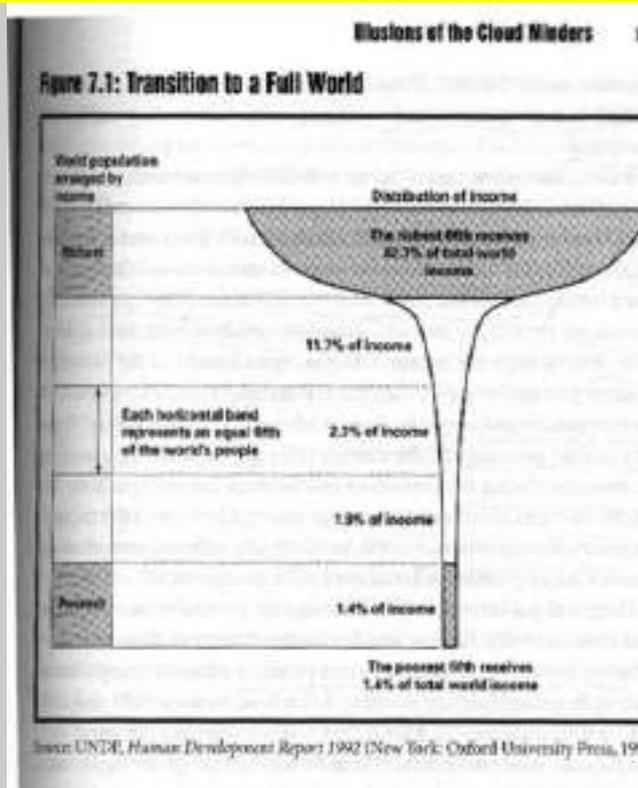
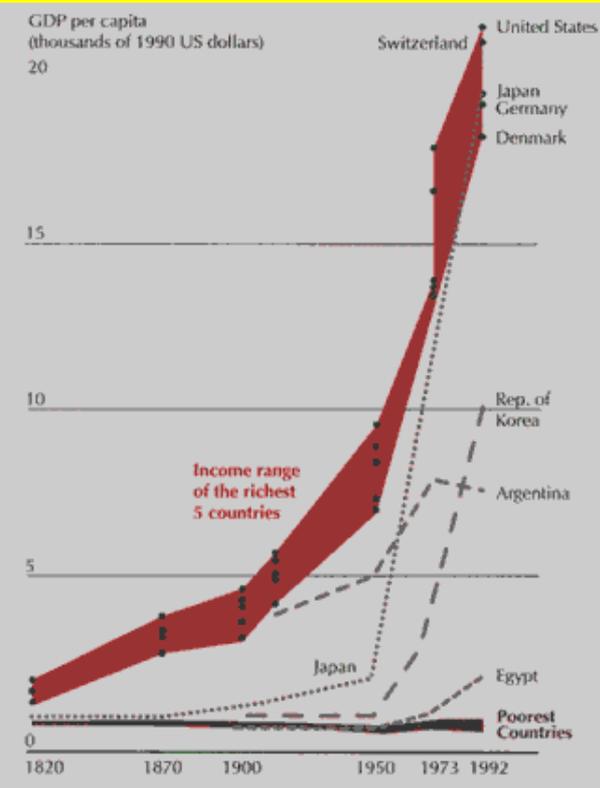


- * 人権、福祉、平和、国際援助・開発協力
- * 環境(気候変動レジーム、生物多様性レジーム、海洋、廃棄物・化学物質…)
- * NGO・国際組織・国連機関・様々なアクター(NPO,CSO…)

危機が問う、社会・世界のあり方とは？



持続可能な発展と3つの矛盾（環境・社会・経済）



- はてしない拡大・成長（**環境**の限界）
- 格差・貧富の拡大（**社会的公正**）
- 経済**価値のモノカルチャー的展開（多様性の破壊）

☆ 「持続可能な発展」：環境・経済・社会の3つのバランス調整、
＜環境的適正＞と＜社会的公正＞による経済発展

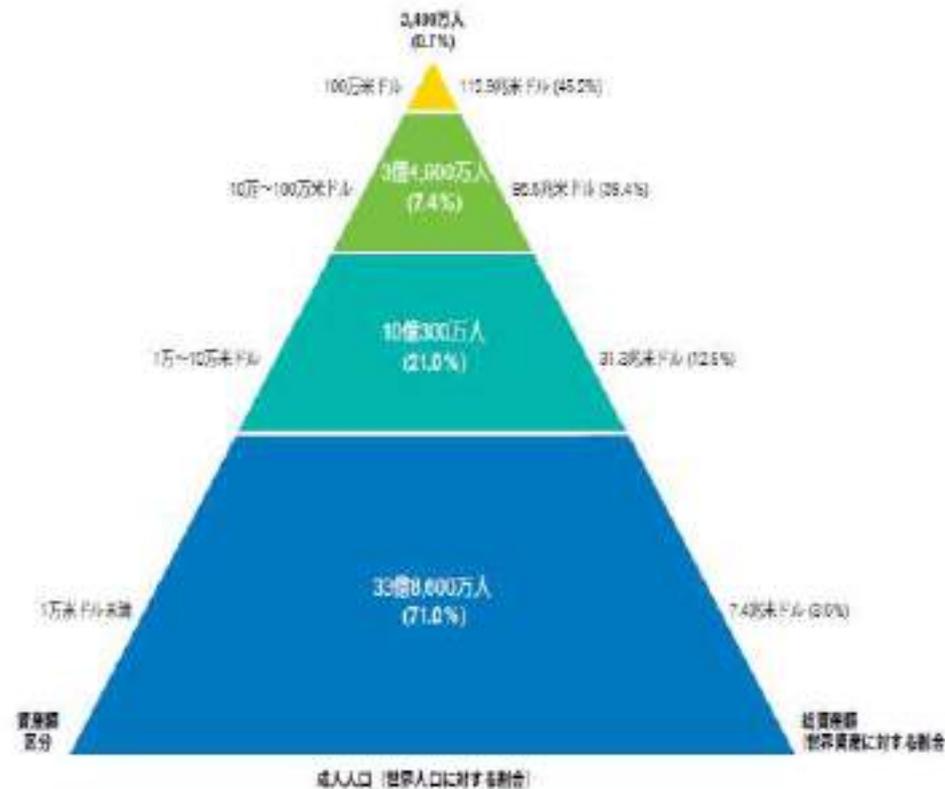
社会的公正・格差の矛盾の拡大

1997年人間開発報告書によると、1960年の世界の所得総額のうち、高所得層上位20%が手にした額は、低所得者下位20%の30倍だった。その後の30年間で、倍率はどんどん開いて1991年には61倍に達し、1994年には78倍に達した。

世界の1%、富の40%保有～：国連大学世界開発経済研究所(本部・ヘルシンキ)、

世界の成人人口のうち最も豊かな上位1%が個人総資産の40%を保有する一方、下位50%が保有する資産は全体の1%にとどまるとの報告書を発表した。(2006)

世界の富のピラミッド



© IFC, James Daley, Rodrigo Uslater and Anthony Gonzalez, Credit Suisse Global Wealth Databank 2015

「格差に関する報告書」(2016～2019)

OXFAM 「最も豊かな1%のための経済」

*** 世界で最も裕福な62人が保有する資産は、世界の貧しい半分(36億人)が所有する総資産に匹敵**

地球サミット(1992)

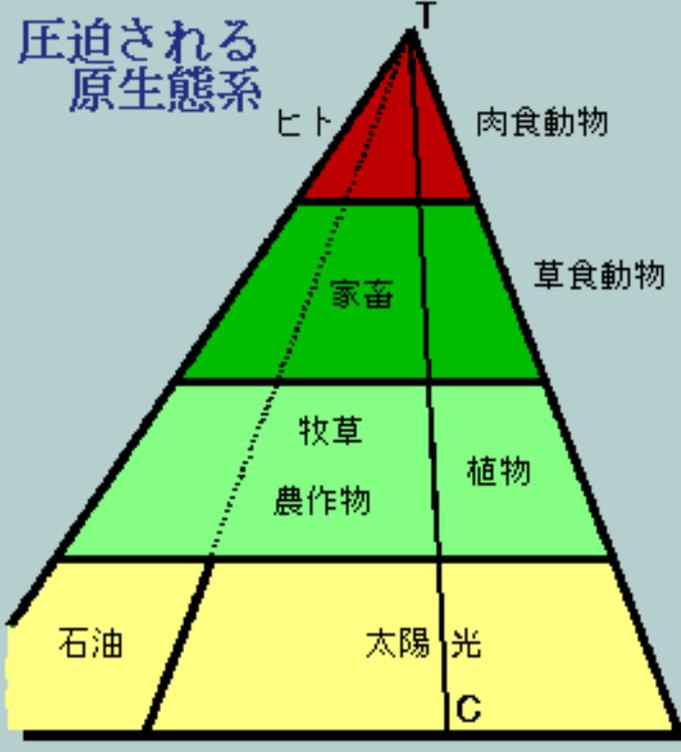
◆ 気候変動枠組み条約、生物多様性条約、リオ宣言、アジェンダ21、森林原則声明など
国際環境レジーム(体制)を形成

双子の条約
の意義

★ 従来の発展様式 (化石燃料型文明) が、気候変動枠組み条約によって終止符、転換を迫られている

★ 人間中心 (単線系モノカルチャー型文明) から、生物多様性条約 (多様性と循環) を契機に生命文明の再構築

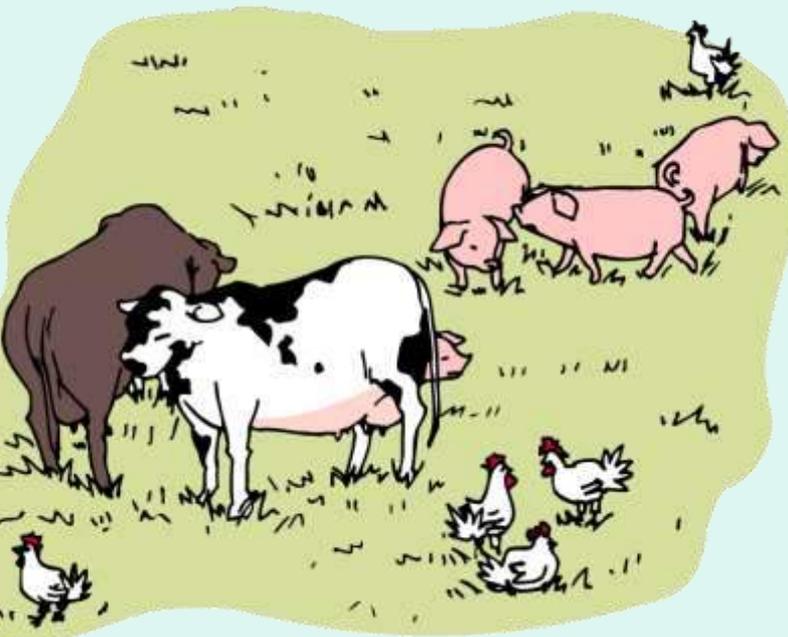
人類がつくる食物連鎖の生態的ピラミッド



●全陸地面積(133.8億ヘクタール)の約36%が農業用地(49.7億ヘクタール／耕地:13.5、永年作物地:1.1、永年牧草地:34)で、森林が約31%(41.7億ヘクタール)、その他(砂漠他、40億ヘクタール)となっている。

●基本的な食料生産、3大基礎穀物の米、小麦、トウモロコシが計23億トン(各6~7億トン)生産され、牛が15億頭、羊が12億頭、豚が10億頭、鶏が214億羽ほど飼われ、人類の総人口約73億人が養われている。(2014年)

★家畜は全哺乳類の60%、人類は36%、野生哺乳類は4%となった!!(バイオマス量)



「食・農・世界」めぐる考え方の対立

「フード・ウォーズ」: 食の未来: パラダイムの攻め合い

- ・生産拡大主義 (もっともっと欲望拡大) に続く、**将来のシナリオ**
- ライフサイエンス (操作) 主義 (生命・自然の管理・支配)
- エコロジー主義 (自然の力・調和関係の尊重)

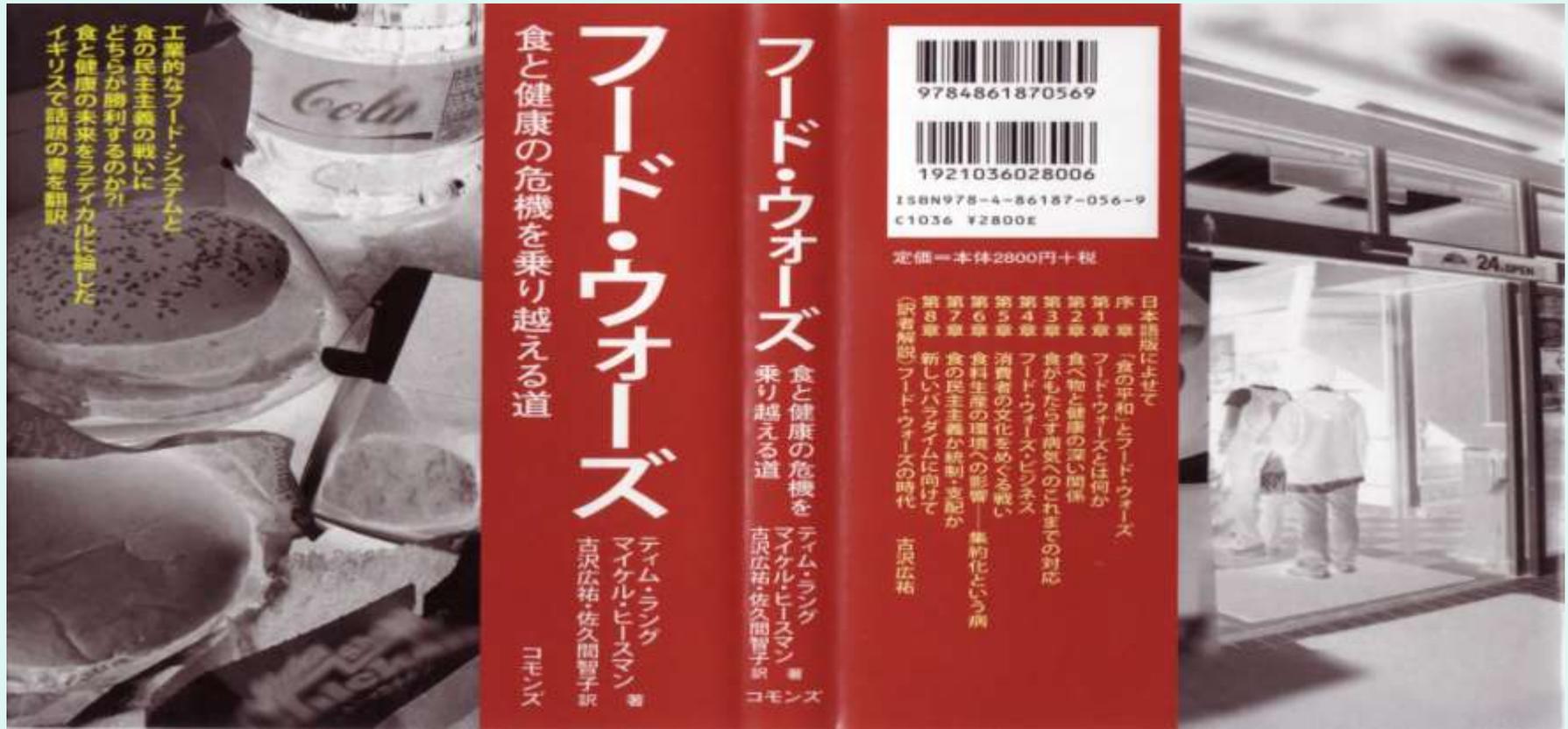
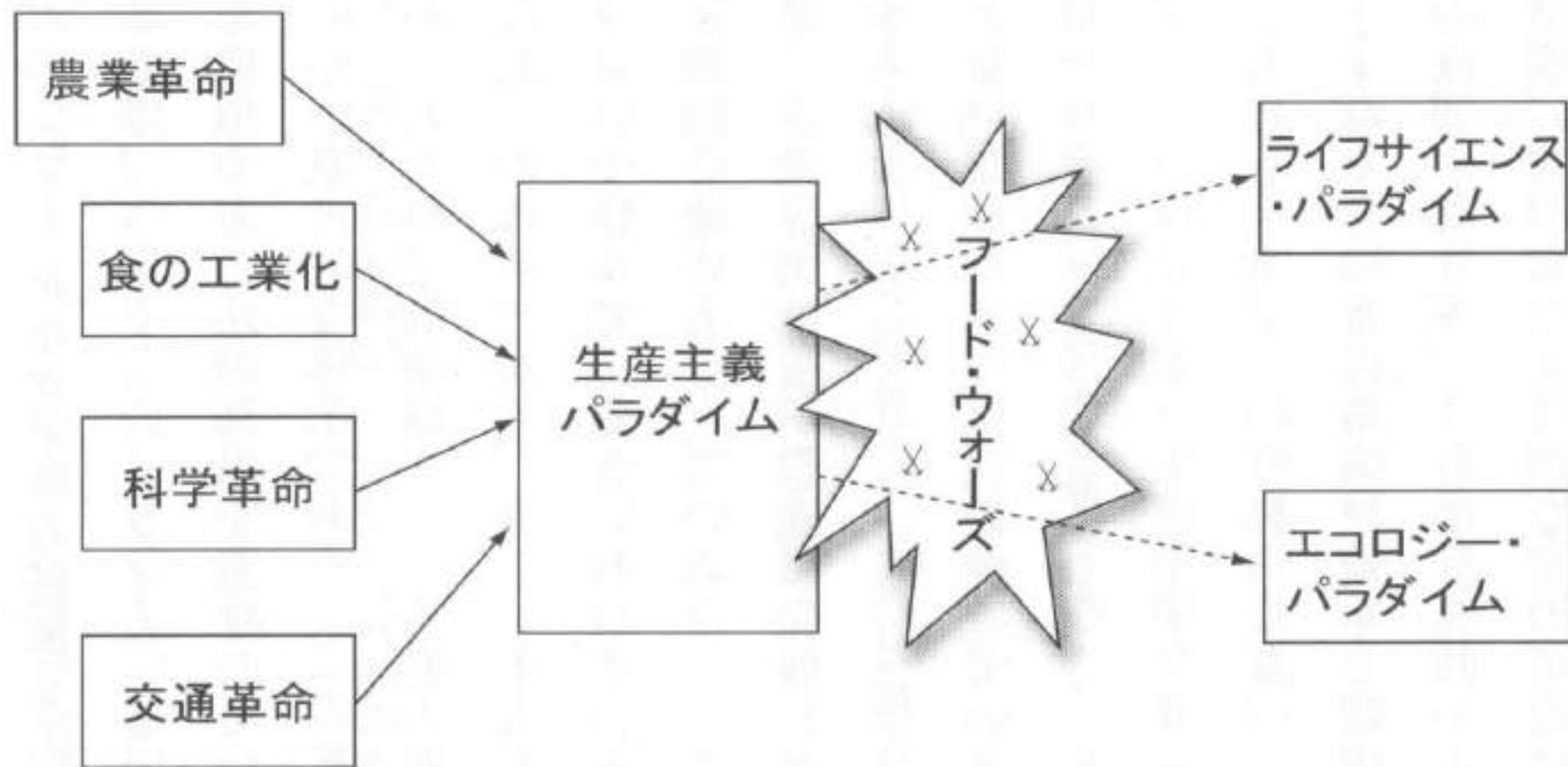


図 1-2 フード・ウォーズの時代推移



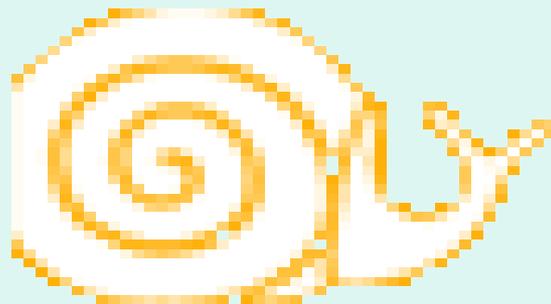
1800年代 → 1900年代 → 1950年 → 2000年 → 2050年

(注) フード・ウォーズの主戦場は以下のとおりである。①食事、健康、病気予防、②環境破壊、③消費者の獲得、④食料供給のコントロール、⑤フード・ビジネスの種類、⑥対立する思想・見解。

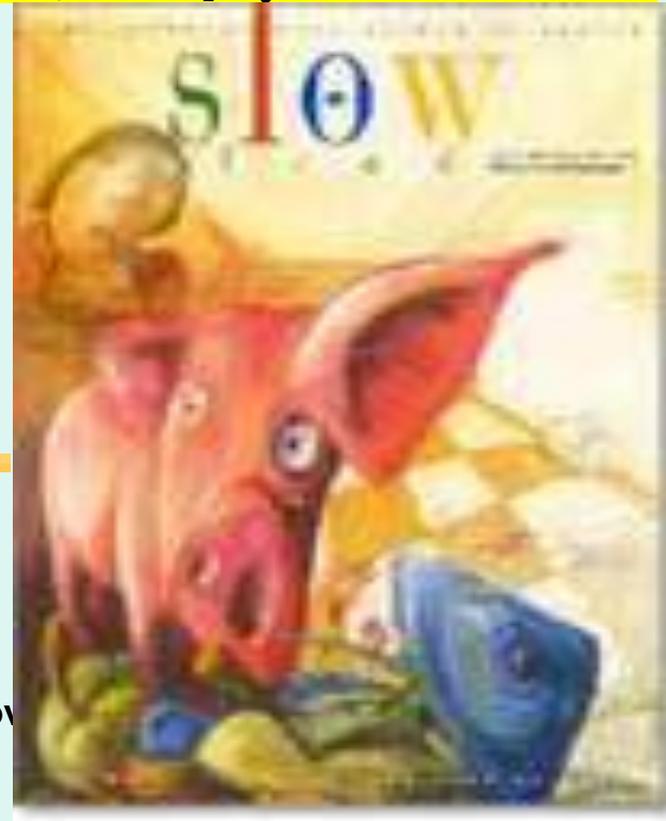
流通・消費における2つの展開 (ファストフード 対 スローフード)



Fast Food



Slow Food mov



Fast Food Nation

by Eric Schlosser

スロー・フード運動は、1986年にイタリアで、ファスト・フードに象徴される効率至上主義の食品産業や食文化に対抗して、伝統的な食品製造技術とその食品をゆっくりと味わう喜びを守る運動として出発した。運動のシンボル、“かたつむり”がよくその性格を表している。

巨大農企業・モノカルチャーの拡大

Bayer-Monsanto Merger:
Big Data, Big Agriculture, Big Problems



Who Breeds Our Food Crops?



巨大モノカルチャー(単一化)か？ 適正規模マルチカルチャー(多様性)か？

世界、日本など多くの地域では、農耕と森林とは昔から密接なつながりをもってきた。今、途上国を中心にアグロフォレストリーが再評価されだしており、アグロエコロジー（農業生態学）や有機農業運動との結びつきを強めつつある。

＜下図は、メキシコの有機コーヒーの生産農業協同組合のパンフレットより引用＞

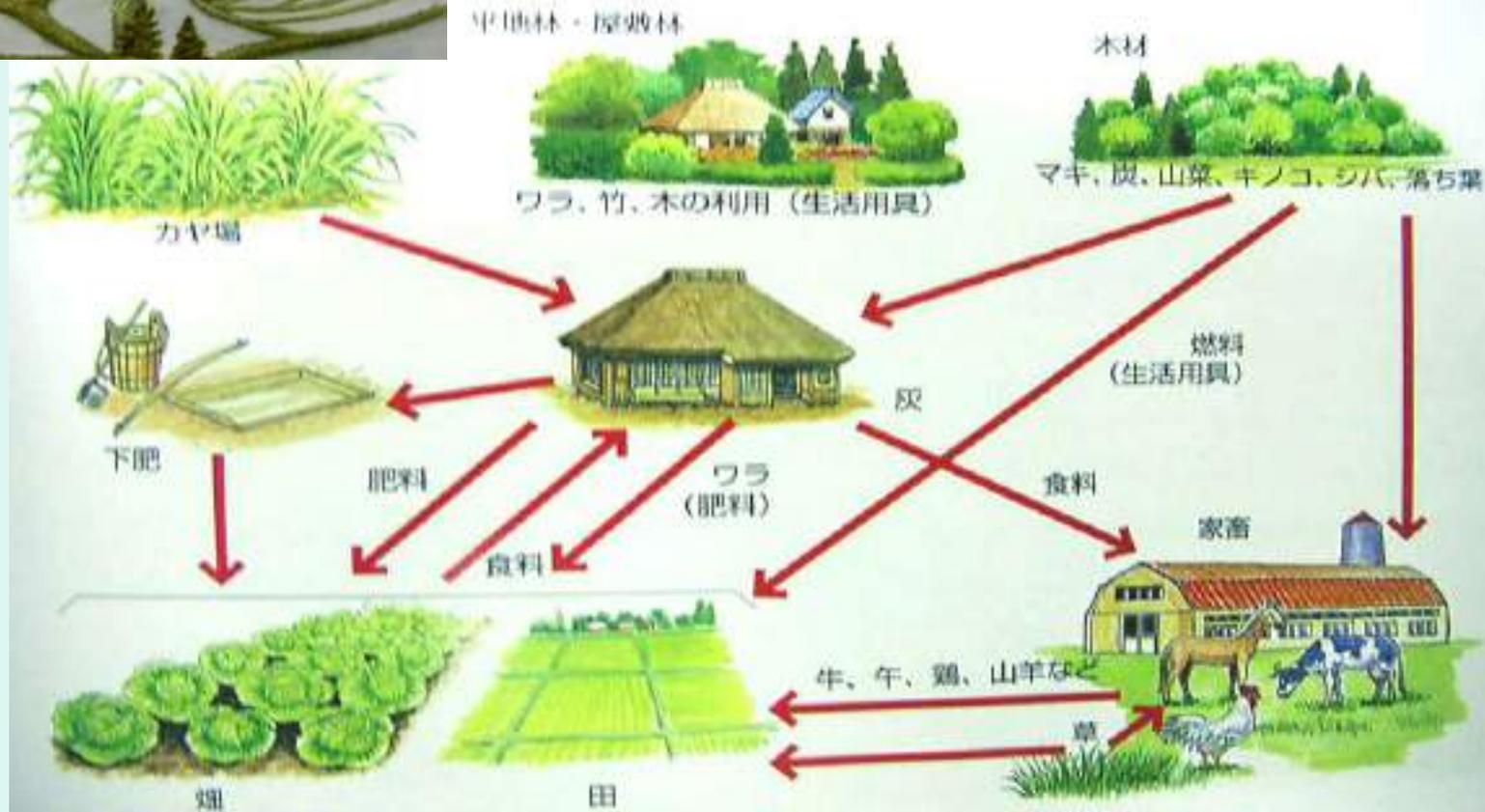


【9月4日（水）15:30～16:30 院内集芸@議院議員芸館 芸案内】

国連「小農権利宣言」「家族農業10年」 を受けて考える日本の開発援助とアフリカ小農 ～モザンビーク、プロサバナの事例から



日本における伝統的な循環型社会形成 (江戸時代から戦前・戦後初期)



東アジア4千年の永続農業

アメリカの土壌物理学のF. H. キング(1848~1911)は、今から1世紀前の1909年(明治42年)に日本、中国、朝鮮の農業を視察し、アメリカ人の目で初めて、東アジア農業に光を当てた。

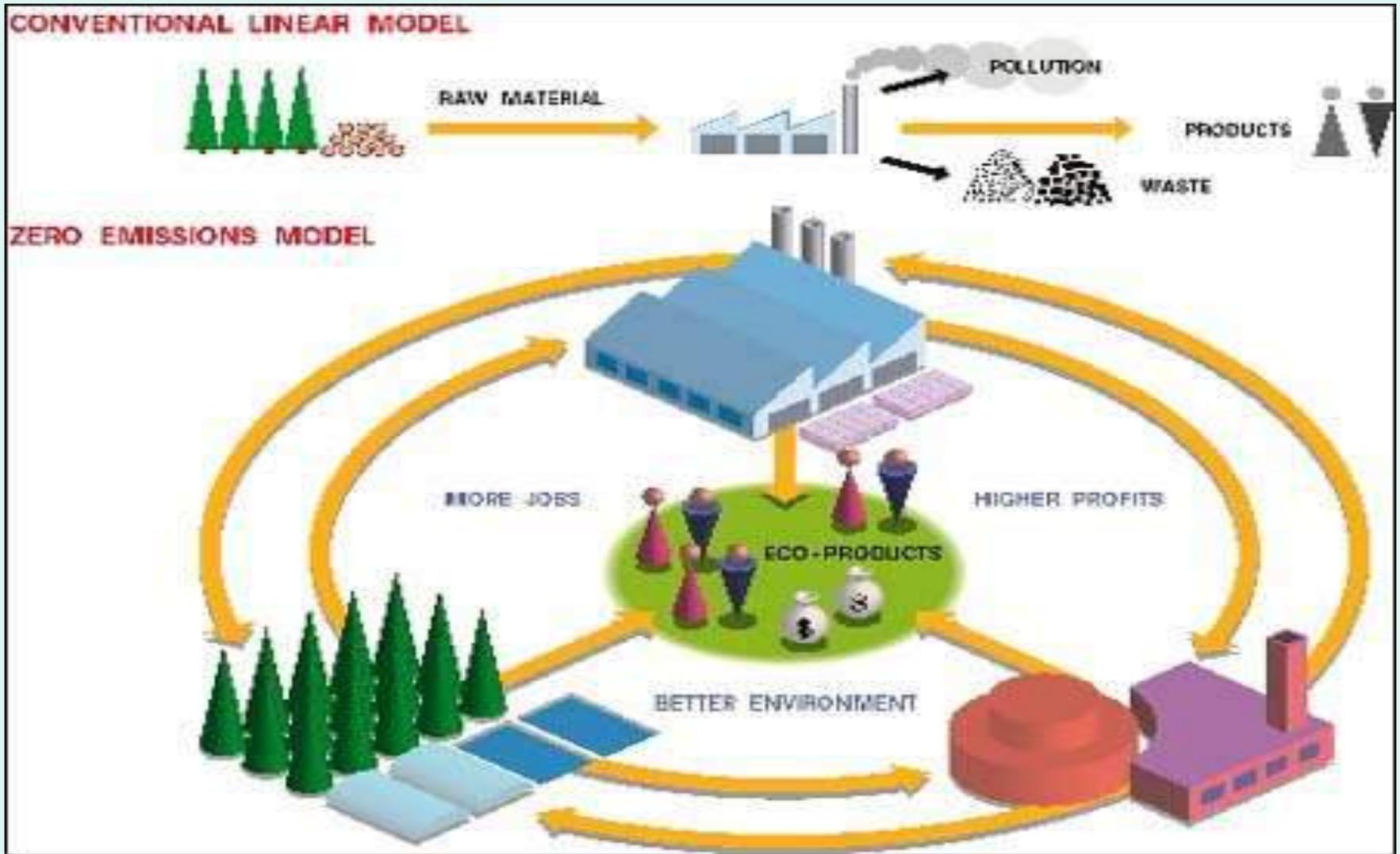
川と灌漑による水の巧みな利用、下肥、山の草木、クローバ緑肥、河川の底土など地域資源の徹底活用、輪作や混植、丁寧な栽培管理など、東アジアの農民が長年かけて築いてきた農法、地域資源を活かした循環型農業に着目した。

1970年代、米国の有機農業運動を契機に復刊。

日本での邦訳の再復刊、
農文協 全2冊、2009年)



ゼロエミッション(廃棄物ゼロ)モデル: 国連大学



「森(川)・里・海」を結ぶ 生命地域主義 (バイオリージョナリズム)



「森は海の恋人」の世界へのいざない

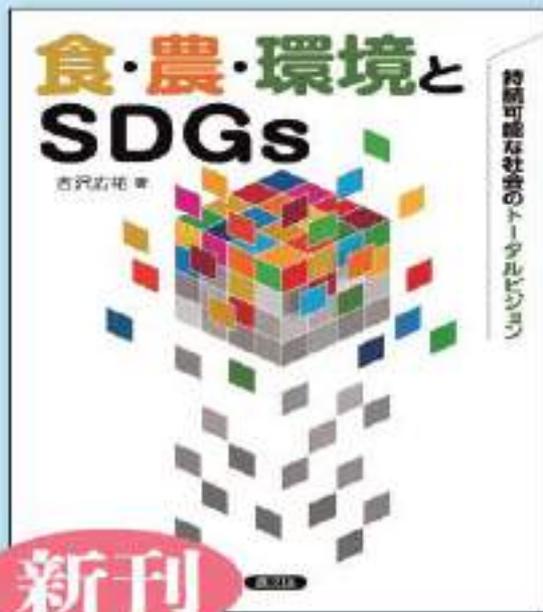
日本がたまたま豊かな森、アスガ爾る清流の里、生命あふれる海の濱に、
 新進日本人の心のふるさとを、とこへ行ってしまったのでしよう。
 森と里と海をつなぐは、日本と世界の未来の子孫達の財産です。
 京都大学は平成13年(1999年)にフィールド科学教育研究センターを設け、
 森と里と海をつなぐを再生させる新たな科学の道生に挑戦しています。

平成16年春季企画展
 京都大学総合博物館 第2企画展示室(階梯2F)

2004年6月2日(水) ▶ 8月29日(日)

午前9時30分～午後4時30分(入館は午後5時まで)
 観覧料 一般・400円 大・高校生・300円 小学生・200円
 会場 京都府・大宮町





食・農・環境とSDGs

持続可能な社会のトータルビジョン

古沢広祐著

A5判並製248頁 定価2,300円+税

ISBN:978-4-540-19209-8

現代は、国際分業と競争が、地域性と自然の循環を切断して大地との離反を促進していくのに対し、地球環境問題の深刻化をくい止めるエコロジー運動の展開、地域コミュニティ・地域循環(調和)型社会の形成の動きが、二種対抗的に展開している。著者は研究者として立場をこえて、地球市民的なNGO活動に長年関わってきた。その実践知的な立場を含め、グローバル化とローカル化の相克と相互革新という視点から、SDGsを実現する社会展望の新しいパラダイムを大胆に示す。

■目次

第I部 持続可能性・SDGsはどのように世界展開したか

- [1] 持続可能な開発目標(SDGs)の登場と世界動向
- [2] SDGsにおける環境分野の進展と大きな壁
- [3] 気候変動とグローバル・リスク世界
- [4] 脱成長・持続可能な地域社会の展望

第II部 自然共生とエコロジー社会の展望

——食・農・環境からの社会変革

- [1] 技術革新がもたらす近未来の世界
——バイオ経済と生命操作、食・農・環境への影響
- [2] 進展するグローバル世界
——3つのパラダイムとフード・レジーム
- [3] グローバリゼーションと有機農業の展開
——つながり合う欧・米・アジア・日本の歴史の変遷
- [4] 世界の縮図・日本から世界を展望する
——食生活・農業の変遷からみる「グローバル」ビジョン

[5] 食文化と農の尊厳性

——「グローバル」な安全保障と地域の自立性

[6] エコロジーと農業がむすぶ潮流

——アグロエコロジーと農業・農村

[7] 持続可能なエネルギーの実現をめざす地域と市民自治社会

第III部 ビジョン形成と社会経済システムの変革

[1] 人口減少・超高齢社会をどう生きるか

——みんな幸せな社会を実現するために

[2] 社会変革をめざす事業体の「グローバル」な展開

[3] 持続可能な日本と地域社会ビジョン

——FEC自給ネットワークと地域循環共生圏

[4] 資本主義のゆくえと持続可能な社会

——社会経済システムの変革と「公」「共」「私」の再編

終章 自然界における人間の未来

——人新世(アントロポセン)、SDGsを実現する世界

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



GLOBAL RESPONSIBILITIES

IMPLEMENTING THE GOALS



JAPAN

OECD Country

OVERALL PERFORMANCE

Score: 68.3



Regional average score: 74.9



SDG Index rank:

25 out of 34



AVERAGE PERFORMANCE BY YEAR

CURRENT ALIGNMENT - SDG DASHBOARD



SDG TRENDS



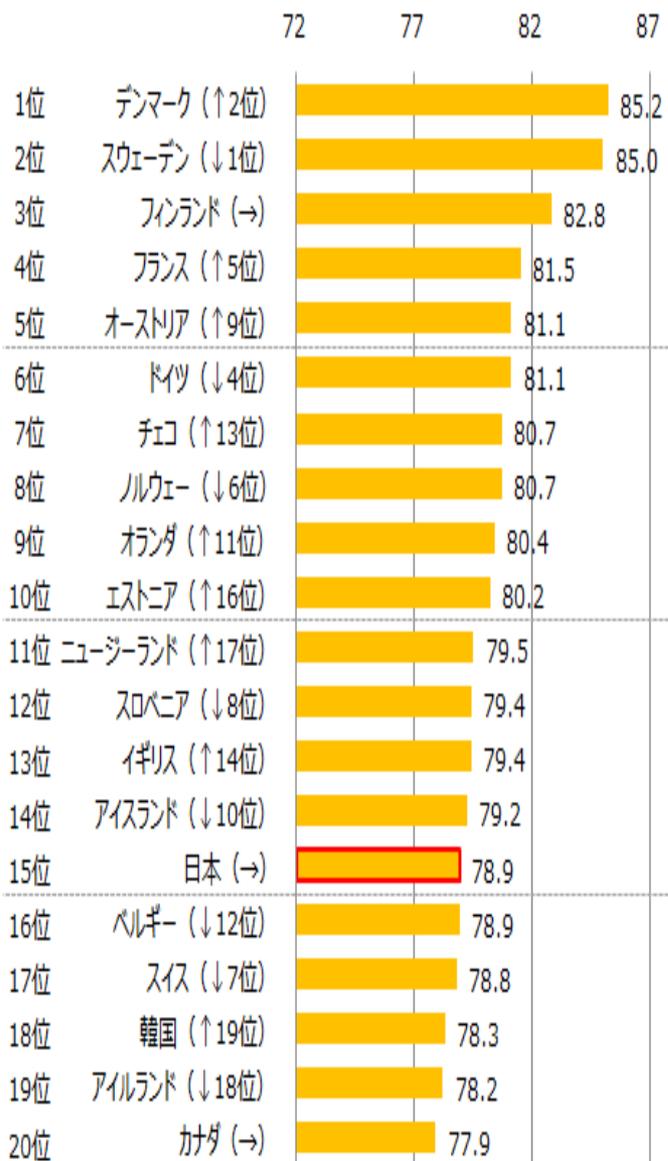
SDGs達成度ランキング: 日本11位から15位に降下、2020年は17位へ

2017年には11位だった日本だが、2018・19年に15位、そして17位へ。

日本にとって最大の課題と指摘されている目標は、**目標5「ジェンダー平等を実現しよう」**、**目標12「つくる責任 つかう責任」**、**目標13「気候変動に具体的な対策を」**、**目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」**

The 2020 SDG Index scores

2019年 SDGs達成度上位20か国



1位	スウェーデン	11位	ベルギー	21位	カナダ	157位	ニジェール
2位	デンマーク	12位	スロベニア	22位	スペイン	158位	コンゴ民主共和国
3位	フィンランド	13位	イギリス	・		159位	スーダン
4位	フランス	14位	アイルランド	・		160位	ナイジェリア
5位	ドイツ	15位	スイス	・		161位	マダガスカル
6位	ノルウェー	16位	ニュージーランド	31位	アメリカ	162位	リベリア
7位	オーストリア	17位	日本	・		163位	ソマリア
8位	チェコ共和国	18位	ベラルーシ	・		164位	チャド
9位	オランダ	19位	クロアチア	48位	中国	165位	南スーダン
10位	エストニア	20位	韓国	・		166位	中央アフリカ共和国

誰も置き去りにしない!!

【持続可能な開発2030アジェンダ】 SDGs(持続可能な開発目標)

- あらゆる貧困と飢餓に終止符を打つ。国内的・国際的な不平等と戦う。平和で、公正かつ包摂的な社会をうち立てる。人権を保護しジェンダー平等と女性・女児の能力強化を進める。地球と資源の永続的な保護を確保する。
- 持続可能で、包摂的な経済成長、共有された繁栄及び働きがいのある人間らしい仕事を、各国の違いや能力の違いを考慮に入れた上で、つくり出す。
- この偉大な共同の旅に乗り出すのに、我々は誰も取り残されないことを誓う。人々の尊厳は基本的なものであるとの認識の下に、目標とターゲットがすべての国、すべての人々及び社会のすべての部分で満たされることを望む。そして、最も遅れているところに第一に手を伸ばすべく努力する。

今年6月中旬、国連SDGアドボケート共同議長、 エルナ・ソルベルグ（ノルウェー首相）とナナ・アド・ダン クワ・アクフォ＝アド（ガーナ大統領）が共同声明を発表



コロナウイルスの世界的大流行の中でも、SDGsは「より良い復興」へと私たちを導く (SDGアドボケート共同議長)

国連広報センター: 2020年6/17 https://www.unic.or.jp/news_press/info/38063/

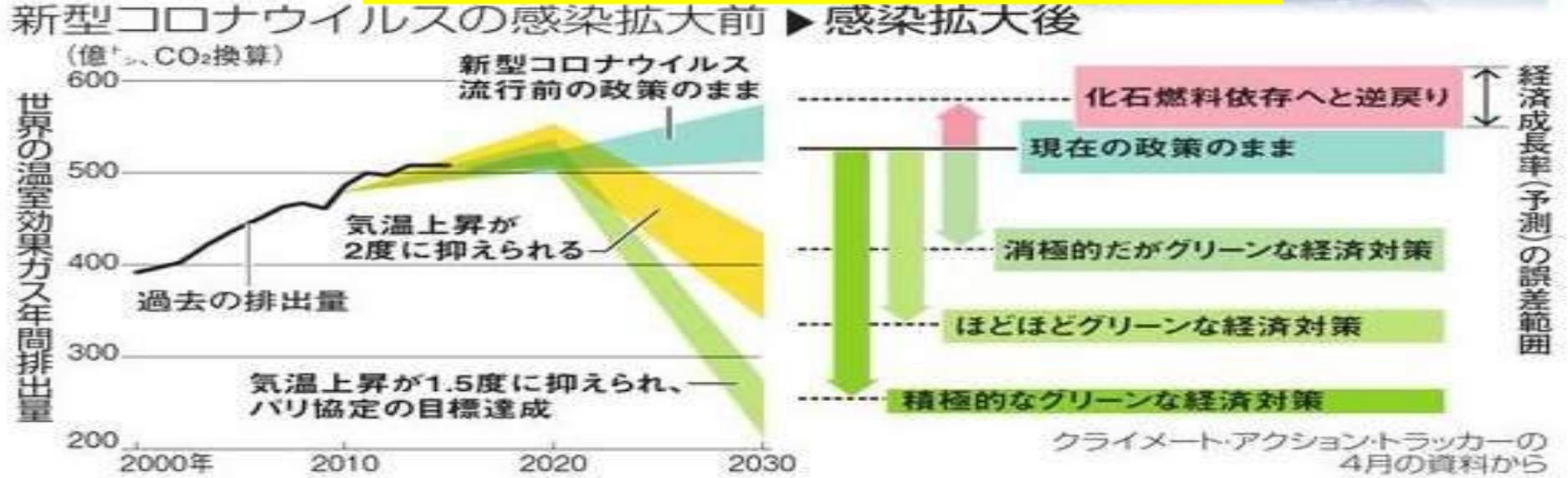
(前略……) COVID-19パンデミックは**グローバル・ヘルス・システム**の危機を白日の下にさらしました。また、2030年までに**SDGsの目標3**を達成できる見通しを著しく損なう一方で、その他すべてのSDGsにも深刻な影響を及ぼしています。……
・国連教育科学文化機関(UNESCO)によると、全世界で10人に9人の学生が影響を受けており、SDGsの**目標4(質の高い教育をみんなに)**の達成に深刻な課題が生じています。国際労働機関(ILO)の推計は、**約2,500万人が失業するおそれ**があり、特にインフォーマル経済の労働者は社会的保護を得られず、最も深刻な打撃を受けることを示唆しています。

……重要なのは、COVID-19パンデミックとその影響が世界各地で、**きれいな水と衛生**に関するターゲット達成の危機(目標6)、**経済成長の低迷とディーセント・ワーク(やりがいのある人間らしい仕事)の欠如(目標8)**、**不平等の広がり(目標10)**、そしてとりわけ、**根深い貧困(目標1)と食料不安(目標2)**によって、さらに悪化しているという点です。国連経済社会局は、この危機によって年末までに、**極度の貧困に陥る人が3,400万人を超える**と見ています。

……SDGsの一部で前進が損なわれたとしても、意気消沈すべきではありません。むしろ、この行動の10年で**「より良い復興」**を遂げ、さらに**健全、安全、公正かつ豊かな世界をつくる**ための取り組みを加速し、深めていくきっかけとすべきなのです。



欧州グリーンディール: グリーンリカバリー



未来シナリオ分析「AI活用による持続可能な日本への政策提言」

京都大学「こころの未来研究センター」2017年9月

● 主要な社会動向の要因として 参考：https://social-innovation.hitachi/ja-jp/case_studies/hitachi_kyodai_labo/

(1)人口・出生率、(2)財政・社会保障、(3)都市・地域、(4)環境・資源の持続可能性、(5)雇用の維持、(6)格差の解消、(7)人々の幸福、(8)健康の維持・増進などが複雑にからみ合う動向を、AIを活用してシミュレーション分析

◎ 2050年に向けた未来シナリオとしては、大きくは都市集中型に向かう動きと地方分散型に向かう動きの2大グループとして示される

・ 都市集中型では、都市の企業が主導する技術革新によって、人口の都市への一極集中が進行して、地方は衰退していくことで、持続性に問題をかかえていく

・ 地方分散型では、地方へ人口分散が起こり、出生率が持ち直して格差が縮小し、個人の健康寿命や幸福感も増大していく可能性をもつ

■ 各シナリオグループの解釈結果

シナリオグループ#	人口	財政	地域	環境資源	雇用	格差	健康	幸福	解釈
1~4	○	△	○	△	△	○	△	○	地域再生・持続可能 財政持続性に注意要
5~7	△	△	△	△	△	△	△	△	持続性不良・不満
8~11	○	△	△	△	△	○	△	△	人口持続可能・不満
12~15	○	△	○	×	△	○	○	○	環境持続不能
16~20	○	×	○	○	△	○	○	△	財政持続不能
21~23	×	○	×	○	○	×	×	×	都市集中・格差拡大 人口持続困難

地域分散型

都市集中型

地方創生SDGs 官民連携プラットフォーム

[概要](#) | [会員情報](#) | [会員募集について](#) | [総会](#) | [分科会](#)

▶ 地方創生SDGs官民連携プラットフォーム

2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中核文書である「持続可能な開発のための目標（SDGs）」が示す多様な目標の追及は、地方自治体における諸問題解決に貢献し、地方の持続可能な開発、すなわち地方創生に資するものといえます。

地方自治体におけるSDGsの達成に向けた取組と、それに資する「環境未来都市」構想のさらなる推進を通じた、より一層の地方創生に向けて、地方自治体及び地域経済に新たな付加価値を生み出す企業、専門性を有ったNGO・NPO、大学・研究機関等の広範なステークホルダーとのパートナーシップの強化、官民連携の推進を図るため、「環境未来都市」構想推進協議会を発展的に改組し、「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」を発足することとなりました。

[プラットフォーム概要はこちら](#)

プラットフォームの役割

自治体におけるSDGsの達成に向けた取組は、地方創生の実現に資するものであり、本プラットフォームは、SDGsを共通言語として、課題解決に取り組む官民の連携創出を支援することを目的として設立する。



SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業の取組

SDGs未来都市 [29都市]

①自治体のSDGs
推進のための
取組

②SDGs達成に
向けた事業の
実施

自治体SDGsモデル事業 [10都市]

上限4千万円/都市 定額補助 上限2千万円
定率補助(1/2)上限2千万円

①経済・社会・環境の三側面の統合的
取組による相乗効果の創出

②自律的好循環の構築

③多様なステークホルダーとの連携



成功事例の 普及展開

選定都市の
成功事例を国内外へ
情報発信

- イベントの開催
- 幅広い世代向けの
普及啓発事業 等

自治体SDGs推進関係省庁タスクフォースによる省庁横断的な支援

- 計画策定 ○選定都市の事業計画策定への支援
○各省庁支援施策活用等の助言
- 事業実施 ○各省庁支援施策を選定都市に集中投入
○取組状況フォローアップの評価基準作りへの参画



2030年
持続可能な
まちづくり



森・食・農の文化と先端生命科学が共生する
“いのち輝く 創造と伝統のまち 鶴岡”創出事業



山形県鶴岡市



鶴岡市が目指す2030年のあるべき姿

国内唯一のユネスコ創造都市ネットワーク
(食文化分野)の加盟認定



豊かな自然・食材
・繊維等新素材



歴史に基づく
伝統行事・民俗芸能

豊かな自然環境

- ・出羽三山、森里川海
- ・森林・海洋資源

～SDGs 未来都市～
いのち輝く、
創造と伝統のまち
鶴岡



発展する産業経済

- ・生命科学・関連産業
- ・観光産業・食産業

充実した市民社会

- ・食文化、個性重視教育
- ・先端的な健康・医療

- ・高等教育・研究機関
- ・地域事業者・ベンチャー



地域循環共生圏とは

「**地域循環共生圏**」とは、各地域が**地域資源（自然資源・経済資源・人的資源等）**を再認識し、それを持続可能な形で最大限活用するとともに、**近隣地域と資源を補完し合いながら、環境・経済・社会の統合的向上を目指す**、という**地域づくりの考え方**。

（例）木質バイオマスによるエネルギー供給事業

- CO2排出削減に加えて、これまで化石燃料を買うために地域の外に流出していたお金が地域に落ちることになる。また、木質資源を供給するため、これまで十分に実施されてこなかった森林の間伐が行われるようになれば、鳥獣被害や水害等を防ぎ、地域を守ることにつながる。

以上を踏まえると、「**地域循環共生圏ビジネス**」とは、以下3つの要素を満たし、結果として地域に裨益しているビジネスであると捉えられる。

- ① 地域資源を活用し、地域内または地域間で補完し支え合いの関係が構築できている
- ② 地域内で資金が循環している（地域外からの流入を含む）
- ③ 環境を含む地域の課題解決につながる

日本の地域を取り巻く課題



地域循環共生圏形成による「環境・経済・社会の統合的向上」のイメージ



地域循環共生圏の規模・階層構造（例）

地域循環共生圏の形成には、地域の特性や循環資源の性質に応じて、最適な規模の循環圏を形成することが重要である。

島根県邑南町

埼玉県小川町



「ふるさと米」等をとおして都市と資金循環

- 年間契約30kg/12,000円（送料込）で地元出身者に地域で取れた米を精米・販売している。農家からは相場より高い30kg/8,000円で買い上げることで、地域の農家の所得向上に貢献する。
- 邑南町全体としては「A級グルメのまち」を掲げてブランディングし、地域外への農畜産物販売や地域へのヒトの呼び込みに取り組む。

さいたま市の企業との連携

- さいたま市のリフォーム会社OKUTAは、霜里農場が指導する4軒の有機農家から有機米を一括前払いで購入し、賛同する社員に給料天引きで有機米を提供する。
- ①全量買い取り、②即金現金支払、③再生産可能な価格という「提携三原則」に基づき協定を締結。他地域の住民が小川町の有機農場を継続的に支える仕組みが形作られている。

全12地区が情報共有して取組を高度化

- 年に2度、全地区が集まって、それぞれの取組を紹介しあう場「ちくせん」を設けている。代表者だけでなく一般住民も参加でき、また、Facebookなどで情報発信しているので、住民の誰もがその内容を見ることができる。ここで見聞きした内容を、自地区内の次の取組に反映できる。
- デマンド交通など一部事業は複数地区が連携して運営されており、今後は、より多くの事業で連携しようとしている。

周辺企業や小川町役場との連携

- 町内の晴雲酒造や隣町のとうふ工房わたなべと連携、町内で生産された有機米等を活かした商品作りに取り組む。発生する廃棄物は地域内高産農家にえさ等として提供される。
- 霜里農場周辺だけでなく、町役場やNPOらと連携し、地域内循環に取り組まれている。町内に回収拠点を設け家庭から廃食油を回収し、VDF化して町の公共車両のエネルギーとして活用することが検討されている。

自らの地区の戦略を策定して事業を発足

- 概ね公民館単位で幾つかの集落が集まって「地区」を形成、自らの地区の課題を分析し、「地区別戦略」を策定している。
- 例えば口羽地区では、地域のための収益事業を実施する主体としてLLP「口羽をてごさる会」を発足させた。「住民のための草刈・除雪や可施設指定管理業務等の地域自治関係事業」、「ふるさと米販売等の農業関係事業」、「新聞配達やデマンド交通等の日常生活関係事業」を手掛けている。

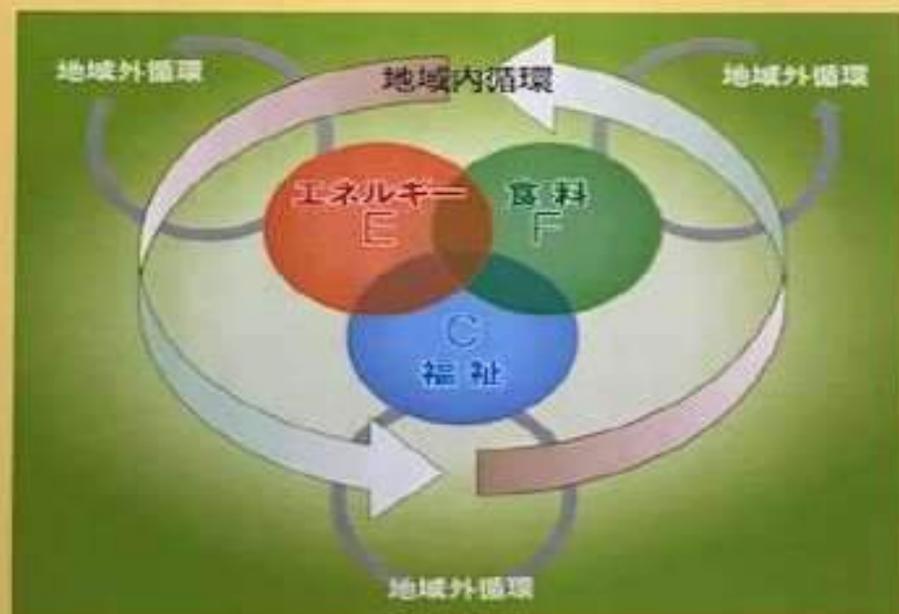
霜里農場および周辺家庭との連携

- 霜里農場では、太陽光発電やウッドボイラーを活用し、農産物の生産にあたり必要となるエネルギーの自給に取り組む。
- さらに、霜里農場では、周辺家庭で発生する食品廃棄物も資源として活用。周辺家庭の住民に農場へ廃棄物を持ち込んでもらい、農場内で発生する食品廃棄物や家畜ふんと合わせて肥料化して堆肥として活用したり、廃食油はVDF化してトラクター等のエネルギーとして活用している。

—ここまで実現した！—

「庄内FEC自給ネットワーク」の “いま”と“これから”

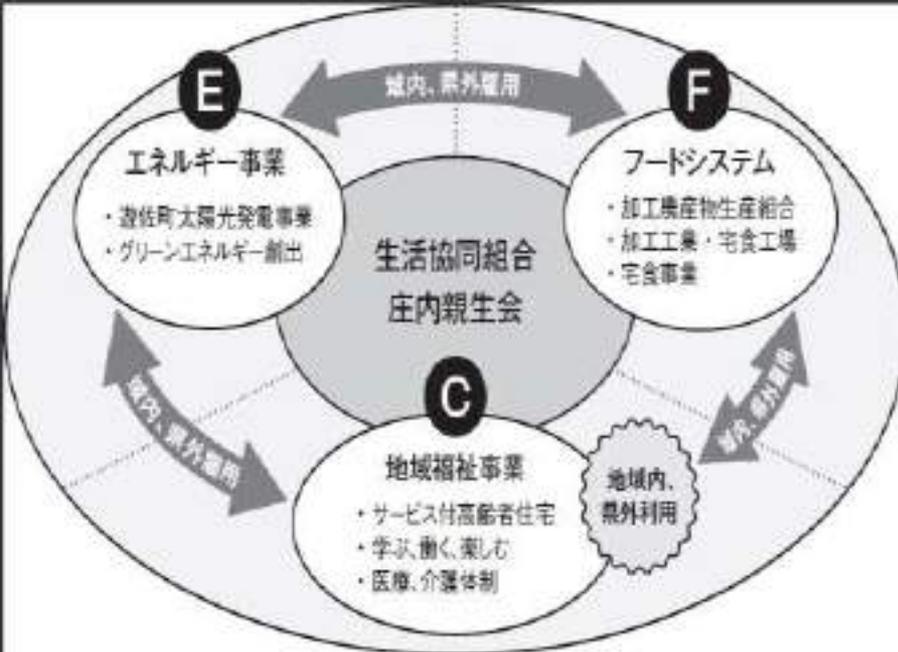
持続可能で豊かな地方をつくる生産者と生活者の新たな構想



「庄内FEC自給ネットワーク」リサーチチーム報告書

発行 一般社団法人市民セクター政策機構

協力 特定非営利活動法人「環境・持続社会」研究センター



FEC/w自給ネットワーク

＜連帯・協同＞

FEC自給圏

（自立・自治）＜自給⇔自律＞

生活クラブ生協（生活クラブ）は“志の高い生協”である。2018年に設立50周年を迎えた。安全・安心な食材へのこだわり、生産者・産地とのつながりの強さ、環境問題での行動力は生協セクターの中で頭一つ抜きん出ている。中でも「FEC自給ネットワークづくり」が圧巻だ。

FECとはFood（食料）、Energy（エネルギー）、Care（ケア＝福祉）を指す。「FEC自給圏」という言葉を最初に使ったのは、評論家の内橋克人氏である。格差と分断を生み出す新自由主義グローバル経済への対抗軸として「人と人が共生する経済＝共生経済」を掲起。食とエネルギーと福祉をできるだけ域内自給することが、地域社会の自立と雇用の創出につながると説く。これを実現する「使命共同体」として協同組合の実践に期待を寄せた。

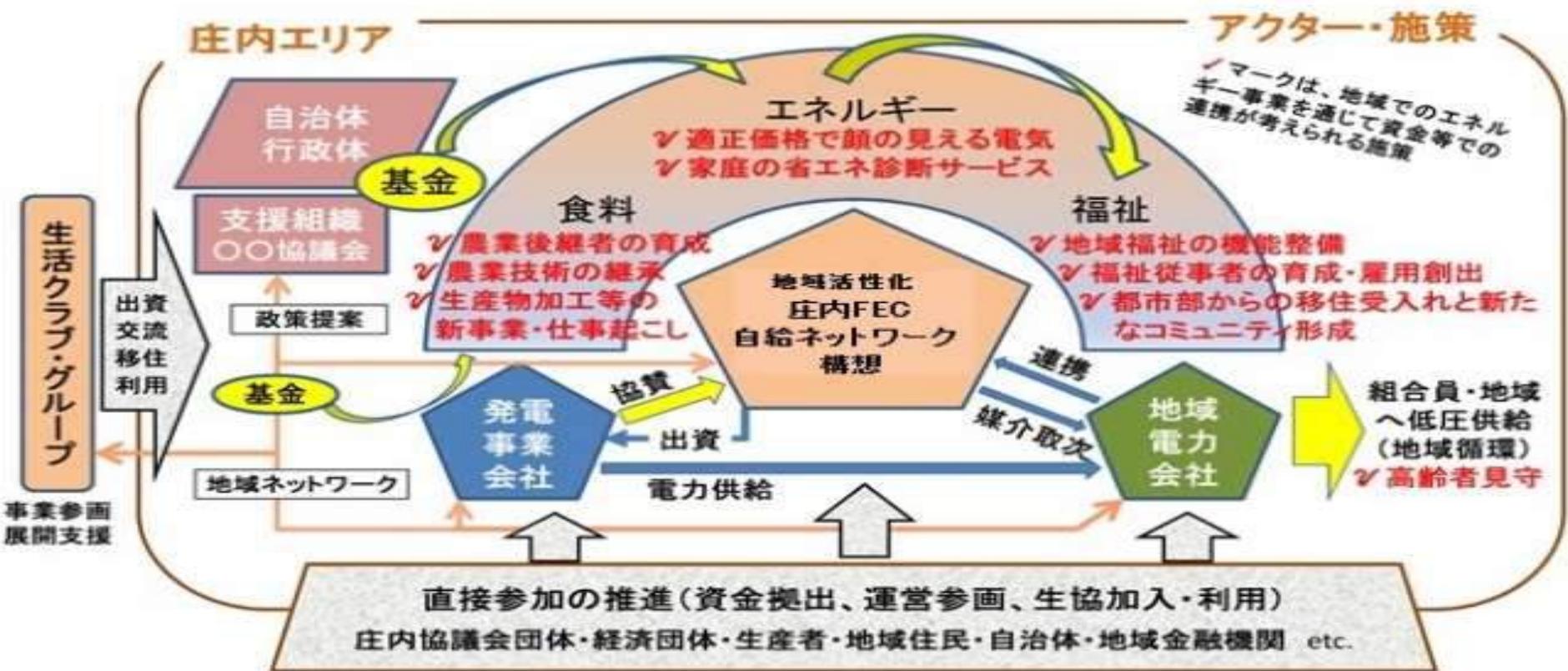
生活クラブは「2012年国際協同組合理年」全国実行委員会（代表・内橋氏、名誉顧問・宇沢弘文東大名誉教授）への参加を経て、第6次中期計画（15～19年度）でFEC自給圏づくりに本気で踏み出した。……………【2020年2月28日：日本農業新聞】



庄内FEC構想の実現に向けて

令和元年5月30日

庄内・遊佐太陽光発電基金（仮称）
創設に向けた共同宣言及び協定締結



多世代共生の参加型福祉コミュニティ



庄内で展開する「参加型福祉コミュニティ」併設機能と事業主体の例

住居	高齢者住宅、学生寮、産地に点在する空き家活用	社会福祉法人、地元事業者等
店舗	販売店、レストラン・カフェ、移動販売	生協、生産者
農業	自家用プラスアルファの農産物栽培	生産者
加工場	エリア内産物の加工など特産づくり	生産者
学び	公開講座、社会人講座、専門教育	大学等
子育て	保育所、ひろば、学童保育、学習支援	生協、NPO等
医療	健康診断、リハビリ、救急、訪問看護	医療機関
介護	デイサービス、介護予防、訪問サービス	生協、NPO等
見守り	声かけ、安否確認、ゴミ出しなど	居住者、ボランティア等
行事	まつり、イベントなど	共同機構、学生等

生活クラブ連合会(活動・とりくみ)より:

*食の安全へのとりくみ:

遺伝子組み換え対策、放射能対策、食料自給率向上のとりくみ

*環境へのとりくみ:

エネルギーを「減らす」「つくる」「使う」、有害物質の削減

*みんなで作る福祉事業:

子育て支援、高齢者支援、障がい者支援、生活困窮者自立支援、生活クラブ安心システム連合(生活クラブの福祉事業所・団体)、産地で暮らす

*社会とくらしを支えるとりくみ:

震災復興支援、働き方・働く場づくり(ワーカーズ・コレクティブ:約400の団体で15,000人以上が事業活動)

インクルーシブ事業連合 2019年度の活動報告

●この年度

市民地域協賛計画の策定を目的として、運動グループの形成や融資のしくみを紹介するファンダメンタルズなどのテーマで出前講座を開催呼びかけ、ブログや地域協議会の主催により3テーマから成り実現しました。



北東京生活クラブでは「まちづくりの学校」として3テーマを実施

●福祉ツアー「シェアキッチンで地域をつくり」

地域の資源をつなぐ拠点となり得る様々な場所づくり、拠点づくりの事例を学ぶことを目的として、今年度は東京都の各自治体等をつくりだす福祉ツアー(見学会)を実施。産地つくりに関する組合員や、経営者ワーカーズ等が参加しているインクルーなど13人が参加しました。



NPO法人ワーカーズ・コレクティブの活動を紹介するワークショップの様子(田原市)

●安心ネットワーク推進委員会

和歌山、鎌倉、町田の市民地域協賛計画と実行に向けた取組みについて活動状況を共有し、参加した地域協議会の活動についても情報交換しました。



和歌山、鎌倉、町田の市民地域協賛計画の推進委員会

●共に働く

2018年度にまとめた、共に働く場を広げるための継続的訪問会をブロック理事会や地域協議会で実施し、地域と共に働く場を身近に増やしていくこと、人や情報をつなぐコーディネート機能づくりの取組を働きかけました。

●事業所併設の取組
働きづらさを抱える人とともに働く運動グループ事業所への支援として実施。全結した2団体に寄付を募り159,500円が実現しました。

●子育て支援フォーラム2019

子どもに親の50%を分けよ! 子育て支援の取組をテーマに実施し、子育てが抱えている困難を、地域の様々な資源が連携して支える事業性を関係しました。



講師:子どもの権利防止センター 大野智子氏

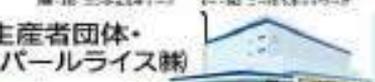
子育て支援の取組をテーマにしたフォーラムの様子

●東京府への予算要望

2020年度の東京都予算に対して運動グループの現場からの声に基づき意見や提案を入れた予算要望を提出しました。また、東京都の地方支援ソーシャルフォーラム等例について参加を行いました。

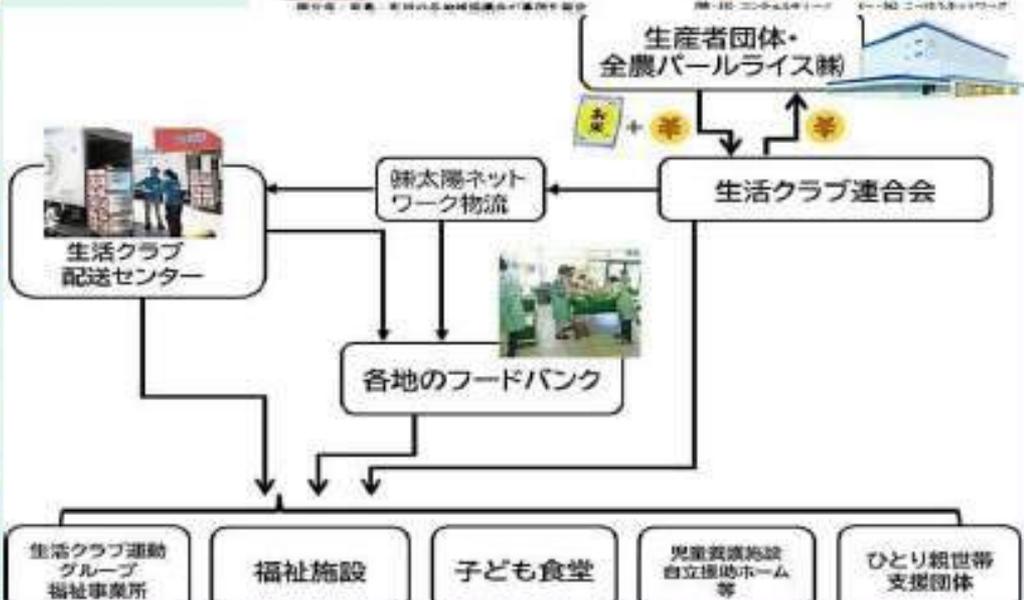
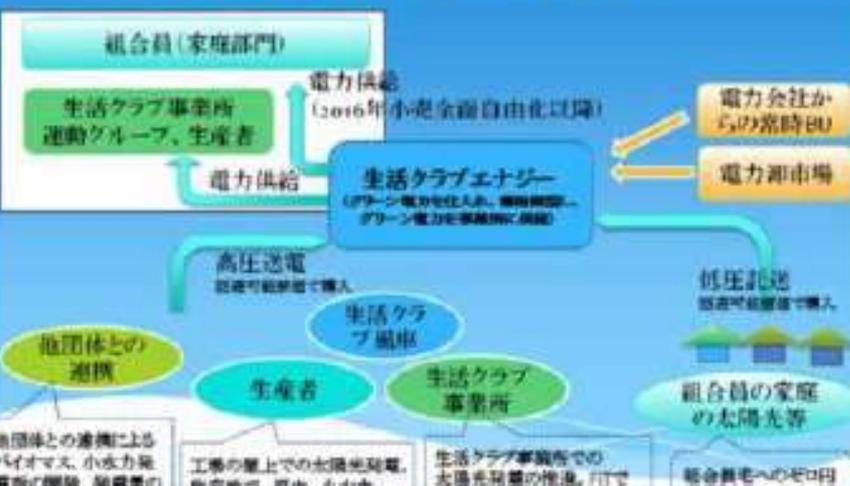
●インクルーシブファンド取組

2019年度第1期・第2期活動では5団体に対して、合計530万円の助成を決定しました。(第2期助成は新型コロナウイルス対策のため検討委員会を立ち上げられ、2020年度予算で執行)



第1期-10 コミュニティイード 第1期-10 コミュニティイード

生活クラブエネルギーによるグリーン電力の調達イメージ



日本の 協同組合

協同組合の思想と実践は
ユネスコ無形文化遺産
に登録されています。

約 **6,500** 万人

 組合員数

 事業高

約 **16** 兆円

 店舗・施設

約 **35,600** カ所

世界の 協同組合

 組合員数

 事業高

約 **10** 億人

約 **292** 兆円

協同組合はあなたの「暮らし」の身近な存在です。 

 全世帯の
37%が
生活協同組合を利用しています

利用世帯数(2012.10時点)

 人口の
4人に1人が
協同組合の共済に加入しています

加入者数(2012.10時点)

 国内預貯金額の
4分の1が
協同組合に預けられています

預貯金額(2012.4時点)

 農林漁業生産額の
半分が
協同組合を通して販売されています

販売額(2012.10時点)

 地域の人々の命や
健康を守っています

病院、診療所、へき地診療、訪問看護・療養

 高齢者が孤立しない
地域づくりを支えています

訪問・通所介護、配食、福祉利用、見守り、運動教室

 未来を担う子どもたちの
成長を支えています

保育所、学童クラブ、児童館、こども食堂

 困難を抱える人々の
社会参加をすすめています

生活協同組合・障がい者・高齢者の自立支援

 クリーンエネルギーによる持続可能な
社会づくりに取り組んでいます

太陽光・小水力・バイオガス発電、バイオディーゼルの燃料

 地域の人々のより良い暮らしに
つながる活動を行っています

健康増進、防災、防災教育、食育、くらしの相談



国際協同組合年(2012)

国連は2012年を「国際協同組合年(International Year of Cooperatives)」と定め、貧困削減や雇用創出、社会的統合など協同組合による社会経済開発への貢献に光を当てる。

「Cooperative Enterprises Build a Better World(協同組合はよりよい世界をつくる)」のテーマのもと、同国際年を通じて世界中の協同組合の成長と設立を促す。

個人、地域、NGOや政府組織は、国連ミレニアム開発目標(MDGs)を達成する上で、協同組合の果たす役割を改めて認識することが求められる。(国際協同組合年 公式サイトより:

<http://social.un.org/coopsyear>)

SDGs ……我々は、小規模企業から多国籍企業、協同組合、市民社会組織や慈善団体等多岐にわたる民間部門が新アジェンダの実施における役割を有することを認知する。

再生可能エネルギー100%を目指す デンマーク

* デンマーク電力の24%は風力発電によって供給。

1980年、デンマークのオーフス近郊にあるニーソルビヤで初めての「風力協同組合」が設立された。「風力協同組合」とは、風車を協同組合の方法で共有、2000年のデンマークの風力発電のおよそ80%が協同組合もしくは個人所有という形態になって広がった。

* ドイツでも、「エネルギー協同組合」が再生エネルギー普及に大きく貢献した。

66(2001年)→586(2011年)(AEE2012)

* デンマーク政府は2050年に
再生可能エネルギー100%
を実現する戦略プランを公表

(2011,12)

(Energy Strategy 2050)



さまざまな主体形成・オルタナティブ： 社会的連帯経済

グリーンエコノミー、モンブラン会議(フランス・EU協同組合セクター)、
GSEF:(韓国ソウル会議2014、協同組合・NPO・社会的企業)
カナダ(モントリオール2016)、スペイン(ビルバオ2018)

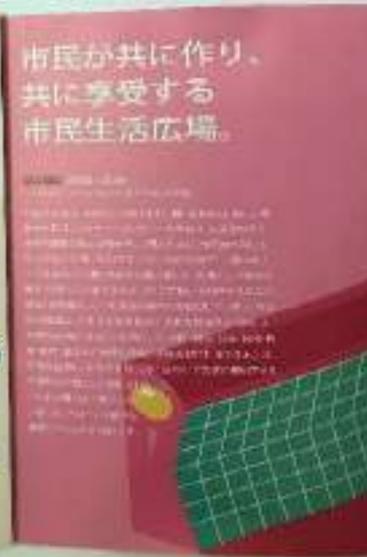
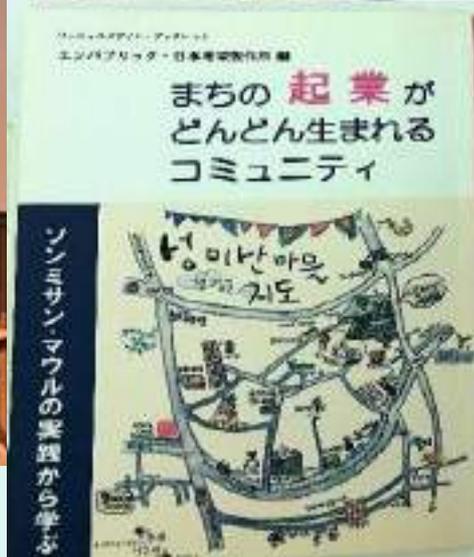




「大転換と現代の危機」カール・ポラニー国際会議 in ソウル, 2017



시간	내용
10월 12일	18:00 - 19:00
10월 13일	09:00 - 10:00
10월 13일	10:00 - 11:00
10월 13일	11:00 - 12:00
10월 13일	13:00 - 14:00
10월 13일	14:00 - 15:00
10월 13일	15:00 - 16:00
10월 13일	16:00 - 17:00
10월 13일	17:00 - 18:00
10월 13일	18:00 - 19:00
10월 14일	09:00 - 10:00
10월 14일	10:00 - 11:00
10월 14일	11:00 - 12:00
10월 14일	13:00 - 14:00
10월 14일	14:00 - 15:00
10월 14일	15:00 - 16:00
10월 14일	16:00 - 17:00
10월 14일	17:00 - 18:00
10월 14일	18:00 - 19:00



K.ポラニーが提示した経済システムの3類型

- (1) 互酬（贈与関係や相互扶助関係）
- (2) 再分配（権力を中心に徴収と分配）
- (3) 交換（市場による財の移動・取引）



歴史的、地政的な背景で多様な存在形態
交換システムが近代世界の市場経済で世界化
グローバリゼーション・肥大化し、諸矛盾を拡大

市場システムの調整・改革という方向性？・・・

★将来的に重視すべきは、3類型を社会経済システムに
適用し、経済システムの根幹を再構築すること・・・

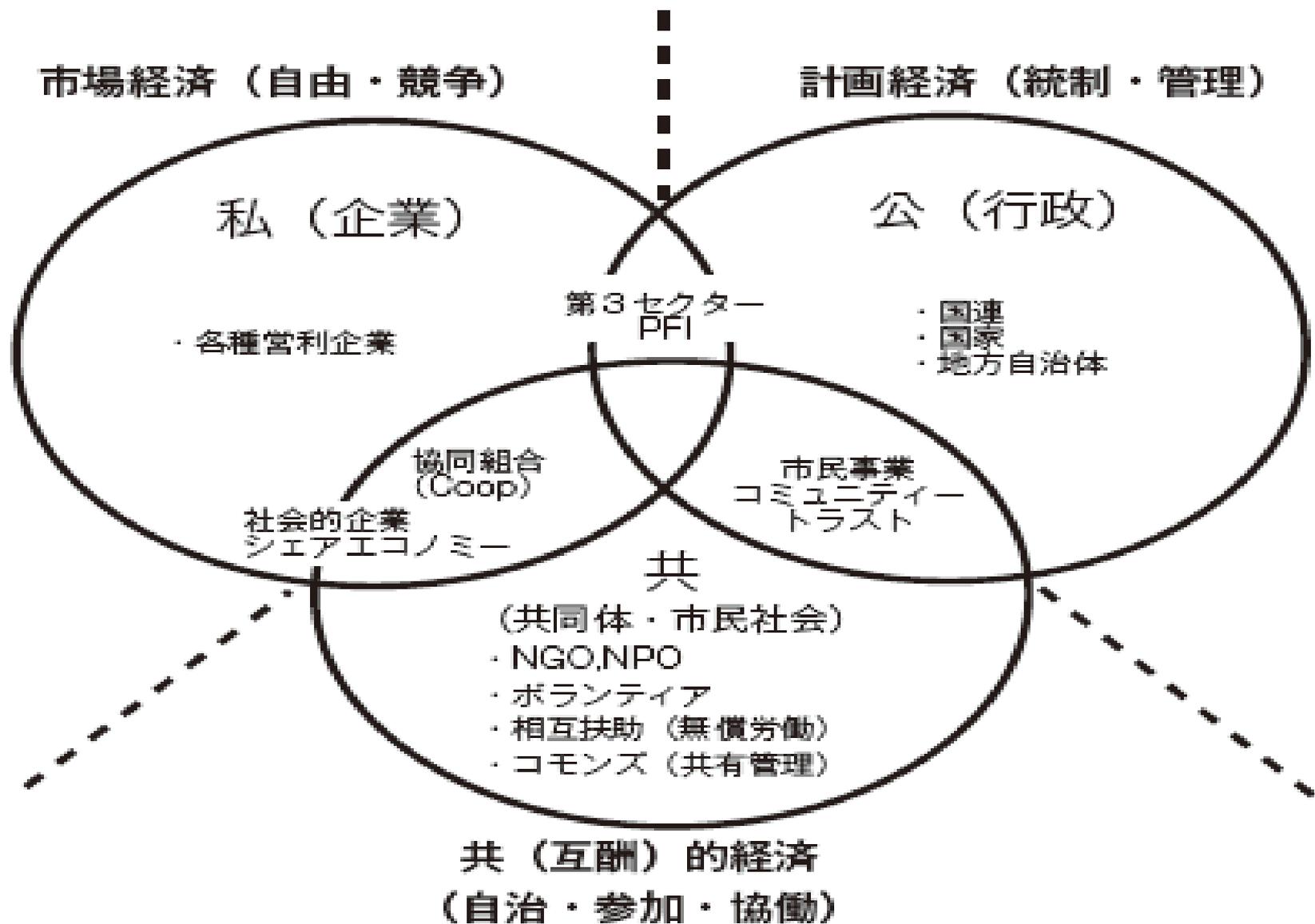


図3-5 3つの社会経済システム (セクター)

3セクターの経済原理と政治原理

	「私」セクター	「共」セクター	「公」セクター
経済原理	私的利潤追求 資本拡大増殖 私有財(市場財を含む)	共益追求 資本制約 共有財(無償財を含む)	公益追求 資本統制 公共財(政治財にもなる)
政治原理	自由(対立的要素) 競争(個的利害) 排他性(搾取)	公正(自律的要素) 共生(集团的利害) 協調性(ネットワーク)	平等(従属的要素) 統制(全体的利害) 統一性(支配)

ポスト資本主義？ グリーン経済の展開？

自給的経済 → 拡大と交流（「ローカル」から「グローバル」へ）
（自然資本依存）

商業資本主義



産業資本主義



<実体経済からマネー経済へ>

金融資本主義

（マネー・信用膨張）



< ? >

資本主義的・拡大膨張経済 （成長経済システム）

膨張・破綻・再調整：ニューデール型ケインズ政策
（従来型枠組みの需要拡大・成長の強制）



環境産業形成による再調整
（グリーンニューデール から 「グリーンエコミー」へ）

↓ 制度変革?? ↓

（ サステイナブル・ウェルフェア社会への構造改革）
環境的適正（有限性）と社会的公正の両立

<定常型・環境福祉社会の実現>

世界を再認識・構想するための視点

◆コロナ危機とは？ 連続する複合リスク時代の一角

* 求められる視点: 世界をミクロからマクロレベルまで
総合的に洞察すべき時代

⇒ 人間という存在を 根源的に問う必要性

自分・世界・宇宙 ⇒ (鳥の眼と虫の眼): 総合的な視点

* 敵対的關係(他者の否認)から、存在の受け入れ(存在受容)
多様な關係・共存をさぐる試み、謙虚さ: **敵対 ⇔ 共存 ⇔ 共生**

< 立ち位置としての3つの視点 >:

・複眼(相対)知 ・批判(洞察)知 ・共感(包摂・統合)知

共存の視点

参考: 拙著『みんな幸せってどんな世界 共存学のすすめ』

共著『共存学1、2、3、4』

拙著『食・農・環境とSDGs～持続可能な社会のトータルビジョン』

